

---

# らき すた 彼女達と過ごした日々・忘れられない宝物

彼方からの翼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

らき すた

彼女達と過ごした日々・忘れられない宝物

### 【Nコード】

N0642T

### 【作者名】

彼方からの翼

### 【あらすじ】

一度全て（記憶）を無くした少年、水野 優希がこなた達と過ごす日々を送り、彼の日常を大きく変えてゆく・・・  
その中で彼は大切な宝物を手に入れてゆく・・・  
仲間という大切な宝物を・・・

## 第1話 俺の日常

．．．．．なんだ？

．．．ゆ．．．き．．．く．．．

．．．．．なんだって？

．．．じゃ．．．あ．．．ね．．．

待って！待ってくれ！！

ゴンッ！！！！

「痛ッ！！！！？なんだ！？何が起こった．．．て．．．んだ．．．」

「ほーう、うちの授業で寝るとはいい度胸しとるやないか．．．」

「いや、先生これはですねえ．．．あれですよ！あれ！

コ ン君の麻酔銃に撃たれちゃっ

たんですよ！

後ろからこうバンッ！って。いや

ゝ、あれ凄いですね！

あはははは．．．」

「あははは、そうか、そうか、そんなにうちの授業がつまらんかったか．．．

ほなしない、うちが楽しくしたろうか？」

「いや、大丈夫です！！さあ、先生！授業始めましょう！」

ガンッ！！！！

「ほな、授業始めるで〜」

「いつてえ！！？なんで！？どうして！？？」

「ここんとこ、テストにだすから覚えとけよ〜」

ユウキ「スルーですか！？？」

・・・・・・・・・・

・・・・・・・・いつも通り過ごし、いつも通りの日常を送っていく・・・・・・・・

・・・・・・・・そこに4つの光が俺を照らすまでは・・・・・・・・

## 第1話

### 俺の日常（後書き）

初めてなんで下手なので、注意点があれば遠慮無く言ってくださいね！

## 第2話

### 人物紹介！パート1！（前書き）

今回は人物紹介です！パート2もやるかもしれません

ん

## 第2話

### 人物紹介！パート1！

水野<sup>ユウキ</sup>優希： 顔は女子っぽくって

おつちょこちよいな性格で、優柔不断なため

たまに、女子に間違えられるのが悩みらしい・・・

好きな食べ物は、甘い物で特にパフェ

嫌いな食べ物は、ピーマンだそうだ

一人暮らしなので、料理や掃除などのスキルは高い

なぜか喧嘩では、負けないらしい・・・

ゲームやアニメなども好きで、ほぼ毎日ネットゲに入っ

授業中などもよく寝ている

・・・過去の事はあまり人には教えたくないらしい・・・

高校に入って彼の生活や日常は

こなた、かがみ、つかさ、みゆきを始めとする

たぐさんの人々達と過し、

彼の心がたぐさんの光が照らされていく・・・



## 第2話

### 人物紹介！パート1！（後書き）

まだあんまりキャラが固まってるないので

今回はキャラを固めて次回に話を進めたいと思います

やヴァい・・・私、まだ次回考えて無いよ（泣）

### 第3話

### 青い髪の小さい女の子（前書き）

今回は、こなたと会う話です！

### 第3話 青い髪の小さい女の子

「ふう、やっと終わったー」

俺が何をやってたかというところ、居眠りの罰で一人でこの教室を掃除してたわけだ

「気晴らしにゲーセンでも行くか」

・・・・・・・・

こなた side

やふー、ひさびさにゲーセンに来たよ  
かがみ達は、今日用事があって遊べないんだって  
しょうがない、格ゲーで退屈をしのぐかなー

・・・・・・・・

んー、この人ちょっと戦い方にクセがあるかな？  
下から上げて、技で落とすだけだとさすがにねーつかれたよ

「ちくしょう！なんで勝てねんだよ！！何処のどいつだ！」

あちゃー、対戦相手の人怒ってるよ、しかもやばそう・・・  
どうしょ？

「てめえか、ちょっと一発殴られろや!!」

ちよ、（．．．）私、女だよ!?

私は、殴られるのが怖くて目を閉じた

．．．．．

．．． あれ? 痛くないけど何かあったのかな?

私は恐る恐る目を開けた．．．その先にあったのは．．．

「え、水野くん?」

優希 side

ゲーセンに入った途端、なんか騒がしいと思ったら

喧嘩が起こってた．．．まあ、俺には関係無いか．．

．．．見たこと無い奴だったらな．．．

俺は、走って男と泉の間に入って男の手を止めた

「み、水野くん!？」

「大丈夫か? 泉?」

「え? ああ、うん．．．」

「ちょっと下がってる．．．すぐ終わるから」

「女の前だからってカッコつけてんじゃねえぞ!」

男は、またストレートに殴ってきたが、俺はそれを軽く右手で受けて下げつつ、後ろに下がってから

前にでて左手で一氣にカウンター気味に鳩尾を殴った・・・男は、それで床に沈んだ・・・

「ふう、よかった、よかった。んじゃ、帰るわ・・・」

「待って！水野くん！」

「ん？どうした？」

「助けてくれて、ありがとね！私、泉　こなたよろしくね」

「俺は、水野　優希　まあ、よろしく」

こうして、俺は巡りあった・・・

俺に、たくさんの宝をくれた泉　こなたに・・・



### 第3話

### 青い髪の小さい女の子（後書き）

遅れてすみません!!!

さて今回は、優希があなたに会った話にしてみましたんですけどどうでした？

次回は誰にしようかな？（オイッ  
では、また次回で！

## 第4話

### 紫の双子の姉妹

#### 前編（前書き）

今回は、ちょっと分けます。



## 第4話

### 紫の双子の姉妹

#### 前編

こなたと優希が出会ってから、次の休みの日・・・

「へー、昨日ゲーセンで絡まれたのをクラスの男の子に助けられた、と」

「えー、こなちゃん。絡まれたの？大丈夫？」

「へーきだよ。ケガしてないし」

「その男の子に助けてもらったからでしょ」

「うっ・・・まあ、いいじゃん！結果オーライってことで・・・」

「はいはい。で、どんな人なの？」

今、私とかがみとつかさは昨日のゲーセンにきたよ！

なぜかって？ふふふ、それはだねー、かがみとつかさが欲しそうなのを見つけたのでまた来てみました！

・・・どんな人啊ー、実はあんまり知らないんだよねー

あのあと、すぐ別れちゃたし・・・

今度会ったら、お礼しなくちゃ・・・

「ねえ、こなちゃん」

「ん、どしたの？つかさ？」

「あの人って、たしか・・・その・・・こなちゃんが言ってた、水野くんだよね・・・？」

「え？」

優希 side

昨日の騒ぎで忘れてたが、コアメダルの第5弾を買い忘れてたんだよなー

さて、プティラの力！さっそく見せてもらっぜー！プットテ  
イラノ〜ザウルス

・・・しばらくお待ちください・・・

この必殺技俺大好き・・・(うつとり  
よし！あと、一回見よう・・・ん？  
あれ？なんか忘れてるような・・・

は！？

俺は、一体何がしたかったんだ！？  
今日は、ほかにゲームとか本とか、買う予定だったのに・

くっ！これが、プティラの力か！

「んなわけ、あるか！」

ゴンッ！！

「痛！~~~~誰だよ！？・・・あれ？泉？」

「やふー、また会ったね」

「えっと、そっちの柊？と、どちら様で？」

「私も、柊よ！柊　かがみ！で、こっちが妹のつかさ」

「ど、どうも」

優希「ここから先は」

こなた「また次回、後編で！」

優希・こなた「バイバイ〜！」

## 第4話

紫の双子の姉妹

前編（後書き）

後編に続く！！

## 第5話

紫の双子の姉妹

後編（前書き）

前編の続きです!!

第5話 紫の双子の姉妹 後編

「えっと、柊 かがみさんに柊 つかささんね・・・うん、  
覚えた！よろしく！」

「え・・・あー、うん、よろしくね」

「水野くん、よろしく」

「・・・で、みんなは何をしてたんだ？」

「ん？かがみとつかさが欲しそうなのがあったから、二人にどうかなって水野くんは？」

「俺？俺は昨日買い忘れたグッズを・・・」

この先を言うと、この三人の俺を見る目はどうなるんだ？

・・・優希の空想・・・

「あー、水野くんってそういう趣味だったんだ〜（ニマニマでも、ごめんね〜私そっちの方はまったくわかんないんだ〜）」

「私も、そっちは知らないし・・・てゆうかこなた？  
こういうのと付き合うと、苦勞するからやめとけて」

「ごめんね〜、水野くん。私もこういうのお姉ちゃん達と一緒に知らないんだ〜でも、誰かはわかってくれると思うよ〜」

・・・最悪のビジョンだあああ！！？



どうすればいいんだ！？どうやってらこの危機を・・・パタ  
ツ・・・ヤバイ！！

「あれ？水野くん何か落ちたよ？はい・・・あれ、このカードの  
絵ってこなちゃんがなんか、ものマネしてたやつじゃないっけ？」

「俺の強さにお前が泣いた！！」

「お前、倒すけどいいよね？答えは聞いてない！」

「えっと・・・わたし、さんじょー？」

なんか三人が俺を見てる・・・

え、これ俺も言っの！？

というか、分かるのかよ！？

泉が早く、早くってジェスチャーしてくるし・・・

周りの視線が痛い・・・でも、心はやりたくないのに、体は・

・

「お前、僕に釣られてみる？」

正直だ……はあー

「でき、かがみあれなだけでさあ、どう？」

「おー！これ欲しかったのよ！よし、ガチャ 右に行つて・

・あ、ちよつと行き過ぎ！

もう一回 ガチャ ミスらないように……上に行つ

て……ちよつと足りなかった！？嘘でしょ！？

まだまだ……」

「なー、泉」

「ん、何？」

「柊って、負けず嫌いなんだな」

「うん、そうだよ。ま、そろそろ止めてあげようか。  
おい、かがみもつ、やめとけば？」

「・・・こなたああ！（泣）全然取れないのよ、これ！  
もう、二千円使ったのに・・・」

「あー、ちょっとどいてくれるか？」

クレーンは、久々だな  
ま、さすがにあれは可哀想だしな・・・ガチャ  
取ってみるか・・・

ウーン ブーン ガチャ ウーン ボトツ

お、いけたなよし、もう一丁・・・ガチャ

「あれ？なんで二回目？」 「ま、いいから、いいから」

ウーン ガチャ ウイーボトツ

あー、落ちたか・・・まだまだ・・・ガチャ

ウーン ブーン ガチャ ウーン ボトツ

「わー！水野くん、すごいー！二つも取っちゃった！」

「ま、こんなもんかな・・・ほれ、柊姉やるよ。  
あと、妹はこれだろ？泉はこれ」

「お、私のも取ってくれるとは、ありがとね」

「え？私にも？もらっていいのかなあ？」

「気にすんなって。ずっと見てたろ、そのぬいぐるみ」

「え、え、私ずっと見てた！？そんなに！？」

私って、分かりやすいのかなあ？

水野くんにもらったこのぬいぐるみ、大事にするね」

「ほれ、柊姉・・・って、どうした？」

「あ、ありがとう・・・このぬいぐるみ取ってもらったうえに、  
もらっちゃってもいいの？」

「俺は喜んで欲しかったから、取ったんだぜ？  
柊も、欲しかったから慣れてないのにがんばったんだろ？  
なら、それは柊ががんばった証だろ？違うか？」

「・・・!! あ、ありがとう」

「ん？なんだって？」

「なんでもないわよ！さ、早く帰るわよ！」

「おゝ！かがみがデレた！」

あの、ツンデレかがみを攻略するとは

これは、水野くん、フラグゲットかな？（ゴンツ！）

もきやああ！いたいゝ、いたいよゝかがみ（泣）

「なら、ツンデレ言うな！！たくつ・・・」

「あはは・・・（苦笑）」      「おいおい・・・（苦笑）」

・・・

「あ、私こっちだから、かがみ、つかさ、水野くん。バイバイ」

「私たちはこっち、それじゃ水野くん、またね」

「また、遊ぼうね、水野くん」

「ああ、またな！」

・・・心はからっぽだったのに、・・・

・・・いつしか、また会いたいと思っている人達がいた・・・

第5話 紫の双子の姉妹 後編（後書き）

次回は、誰かな？

まあ、分かりますよね（笑）

・・・やっと、かがみとつかさに出会えた・・・！！

## 第6話

### ピンクの髪の萌え要素（前書き）

こなたとかがみ、つかさに会ってから二日目の朝

・・・そんな中、一人の少年が目覚めました・・・

今日は、何が起こるのやら・・・



## 第6話

## ピンクの髪の萌え要素

んゝ、よく寝たゝふあゝ

さてと・・・さっさと朝飯食って行くか・・・

・・・

よし！準備オツケー！

忘れ物は・・・無いかな？

それじゃあ、行ってきます・・・父さん、母さん

・・・

今日も、いい天気だなあゝ

こういう日は、何かいい事ありそうだなゝ

ふあゝ、あくびも止まんねえ・・・

「あゝい、待って！」

・・・だれだよ？ん、いない？

よく、見てもだれもない？

「・・・下だよ」

下？言われたとうり

下を見てみると、小さい体で、

ぺたんとした残念な胸、トドメに長い青い髪の上に  
アホ毛を立ててるちよつとムスツとした泉がいた。

「・・・今、私の事おもいつきりバカにしなかった？」

「な、なわけないだろ！？気のせいだって・・・」

「・・・いいもん、別に。外国じゃあ小さい子は需要たつぷりだし、  
貧乳はステータスだもん、希少価値だもん・・・」

そう言つて泉は、むちゃくちゃ凹みながら

学校に行く道を行き、俺はというと泉をなだめる為に  
謝ったりしてると泉が・・・

「じゃあ、今度私の言う事を一回聞いてくれたらいいよ？」（ニマ  
ニマ）「」

「そつくるか、普通！？・・・えーと、それ以外は？」

「無いよ？どうする？どうしちゃう？」

うーん、どうする？

泉が凹んでるのは、俺のせいだしな

言っ事を聞くか・・・何やらされるのやら・・・ま、いつか？こいつのおかげで、おとといは楽しかったし・・・

「よし！その条件、乗った！でも、機嫌なおしてくれよ？」

「おっけー！」「キーン、コーン・・・」「あ、やば！

これ予鈴だよ！？水野くん、早く行かないと！」

・・・

「それじゃ、出席取るで、秋山、「はい」泉、「・・・」

泉？おーい、なんや欠席かいな・・・」「遅刻じゃないです！？」

・・・それじゃ、泉？理由は？」

「いやー！たい焼きを盗んじやった子がですねー！

いきなり、私たちの手を取って走りましてね！ね、水野く

ん!？」

「そうですよ!泉の言うとおりですよ!

大変だったんですから!お店の人に一緒に謝ったり  
したんですから!なあ、泉!？」

「「ほら、遅刻じゃないでしょ!？」」

「二人まとめて、黙つとれ!!」

ガンッ!

ガンッ!ガンッ!

「もきやああああああ!!?」

「いってえええええええ!!?なんで、俺だけ二発!？」

「はよ、座れ!その二人!」

「「はい……」」

……休憩にて……

「黒井先生のげんこつ、あれおかしいって（泣）

まだ痛いもん・・・ね、水野くん？ん、おーい！聞こえてる？」

「こなちゃんゝゆきちゃん連れて・・・」

「今日は、いきなり不幸だあー！！」

「わ！？びっくりした！どうしたの？水野くん？」

「あのゝ、大丈夫ですか？泉さん、まだ、痛むんですか？」

「あ、柊さんに・・・わかった！高良さんだ！あつてる！？」

「ええ、高良　みゆきです。よろしくお願いします、水野さん」

「あれ？なんで俺の名前がわかったんだ？」

「つかささんに聞いたんですよ。優しい男の子を紹介してあげると言われた時に名前を聞いたんですよ。」

「あ、そゆこと」

ん？知らないはずなのになんで高良さんの名前がわかったか  
だって？

そんなもん決まってるだろ？

美人で、メガネで、きょ・・・げふん！げふん！

ともかく萌え要素がたくさんの人だからさ！

「ん、よろしく。高良さん」

・  
・  
・  
・  
・  
・  
・

・  
・  
・  
彼女たちと出会って数日

・  
・  
・  
だけど、昔からの友達みたく

・ ・ ・ ずっと一緒にいたような気がする

・ ・ ・ なんなんだ？この気持ちは？

## 第6話

### ピンクの髪の萌え要素（後書き）

今回は、なんかむりやりいったような気がしますよね？

私には、みゆきさんをつまく出せない！？（泣）



## 第7話 仲良くなった証

「なあ、柊姉？この問題ってどうやるんだ？俺にはさっぱりなんだが……」

「ごめん〜お姉ちゃん。私も教えて〜？」

「ん？ここはね。XをYに足したうえでね……で、つかさ。あんたまたなの？」

昨日遅くまで勉強してたんじゃないの？」

「は、はう〜！そ、それはね〜ちょっとやったら眠くなっちゃって……気づいたらもう朝なんだよ〜  
びっくりしちゃったよ〜」

「あはは、柊妹はなんというかドジっ子なんだな」

しかも、かなりのレベルのドジっ子属性であることがここ数日で分かったことだ！あと、料理が上手いらしい……。本当かちょっとまだ怪しいけどな？なんか調味料の砂糖と塩を間違えそうだ。

「……。というか、水野くん？」

「ん？何かあったのか柊姉？」

俺が返事を見ると、柊姉はなんか不機嫌そうな顔した。  
なんかまずい事でも言ったか？

「いつまで柊姉とか妹って言うつもり？」

.....

.....あれ？これフラグたってる！？

まさか、このあとかがみさんと付き合ったりできるかも！？  
.....バカらしい。ただそういう言い方が嫌いなだけな  
んだろ？

「え〜と、つまり名前で呼べってことか？」

これなんてギャルゲー？

「おお〜、何かギャルゲーみたいな展開だね〜？このこの〜」

「わ！？びつくりした！！いつからいたんだ！？泉、高良さん！？」

何故高良さんって呼んでるか、分かるか？

.....最初に話した時から、なんか俺とは全然違う、  
何処かのお嬢様みたいだね〜って思ってたら、実際その通りで、品  
行方正でメガネで、ナイスバディーの萌え要素たっぷりのお嬢様っ  
て泉が言ってた.....さん付けしないとダメだろ？

「かがみんが水野くんとフラグ建築しようとした時」

「いや、立てた覚えはないからな!？」

「いやゝ、もうお二人さん。息ぴったりだねゝ？」  
ガッツ!  
バチッ!

「ねえ、ゆきちゃん。」

「どうかしましたか、つかさん?」

「こなちゃん、最近叩かれてばかりだよねゝ?」

「・・・確かにそうですね。」

「あと、フラグって何?ゆきちゃん?」

「フラグ・・・旗のことでしょうか?でも、建築?えっと、すみません」

天然と天然って会話がずっとエンドレス・・・終わる気がしないな。

「にしても名前で呼ぶって・・・お前らはいいのか？いきなり名前で呼ばれても」

「私は、いいよ。こなたって呼んでね」

「私も、呼んでね。かg」がみん」って、こなた！！「分かったぜ！かがみん！」ボコッ！・・・かがみって呼びなさいよ」

「私も、呼んでね。つかさ・・・（ちょっと恥ずかしいかも／＼）って呼んでね」

「私もお願いしますね。みゆきでかまいませんよ？」

なんか恥ずかしいな・・・

でも、やっぱりいいなこっいうのも・・・

「えっと、こなた。「ほいほい」かがみ。「ん、なに？」つかさ。「どうかしたの？」みゆきさん。「さんは無くてもいいですよ」「そうか？・・・」

これを言うのは、まだ早いよな？

少なくとも、余計な心配はさせたくないし・・・

「「「「どうかしたの（ですか）、優希くん（さん）？」」「」」」

「いや、なんでも無い。・・・お、そうだ！いゝ、いや・・・こなた、今日の放課後あいてるか？」

第7話 仲良くなった証（後書き）

今回は、名前呼ばれたり、呼んだり・・・まさに青春ですね（笑）

さて、こなたを誘った優希・・・どこへ行く予定なのやら？

では、また次回で！

## 第8話

いざ、いかん！聖地へ！

こなた side

くく 今日はお宝ばかりだったよ

みよ！この宝物達の姿を！

エヴァ リオンの限定フィギュアに、涼宮 ルヒの追想  
く長門有希の落とし物く、け おんのエクストラフィギュアとあ  
とは、マンガが三冊ぐらいかな？

まさか、こんなに買い忘れたお宝があるとは・・・

もしかして、かなりのラッキー！

これも、優希くんに感謝感謝だね！

優希 side

「なん・・・だと・・・！？今日発売のレア物とかはともかく、俺  
が買いたかったものが全滅！？」

・・・嘘だ！そんなの嘘だ！誰かが目の前で買ったとか  
じゃなくて、店の定員が隠したんだなんて嘘だ！

なんなんだ！？この店！？俺とこなたが入った瞬間空気が  
変わったんだぞ！？

「・・・なあ、こなた？アニメイトってあんなところだったのか・・・

「今、俺達はアニメイトに行き、こなたは大量の宝物達を手に入れ、俺は結局何も買えなかった・・・ors

「まあ、あのお店はいつも定員が熱いからね」

「ん？ねえ、優希くんあの後ろから走ってくるのって・・・」

「へ？後ろ？て、うおおおお！？あれって・・・」

「アニメ店長！？」 「さっきの店の人！？」

アニメ店長side

「うおおおおお！！！！ついに、ついにこの日が来たアア

ああああ！！！！

あの伝説の少女Aがとうとう俺の店で買ってくれたあああ

！！！！

何故、今日は買ってくれたんだ？前は買ってくれなかったのに・・・

確かもう一人少年がいたな・・・彼のおかげか！？

なら、お礼をしなくては！彼はこのへんのグッズをみてたよな・・・よし、行くかあああ！待っている！伝説の少女Aの横に居た少年！！！！

優希side



「見つけたあああああああ！！！！」

なんなんだ！？あの店長！？

いきなり走ってきたぞ！？あんなに荷物持ってなんであんなに速いんだ！？

「と、ともかくこなた！！逃げるぞ！！」

「え、逃げるの！？なんかいっぱいレアグッズ持ってるよ！」

「そのとうりiiiiiiii！！さあ、このグッズ達が欲しければ待てええええ！！」

「なにiiiiiiii！！？まじで！？しかも、それ今日俺が買えなかったやつばっかだ！待つ、待つからくれ！」

俺、なんか喜ばれることやったけ？

そう思いつつ、店長から荷物をもらおうとした瞬間なぜか・

「ありがとううううう！！！！」

土下座されたうえに、おもいつきり泣かれた・・・why？なぜ？

話を聞いてみると、店長いわくこなたが何かを買うとその店は、一気に大手企業並に勝ち組のなみに乗れるジंकスがあるらしいと・・・本当か？それ？

「よし！これからもアニメイトをよろしく！！来てくれたら、ポイ

ントをオマケしてあげようじゃないか！じゃあな、伝説の少女A！えーと、「水野です、店長！」

水野！これからは俺の時代だ・・・ふっふっふ、いやあふうふうううう！！！！」

そう言つて、店長は走って帰って行った・・・何だったんだあの人？

なんかこなたと交流を深めようとしたのに、上手くいかねえなぐとも思つた俺がいた。

「・・・なあ、こなたは今日、楽しかったか？」

「ん？私は楽しかったよ、グッズも手に入つたし（店長のおかげで優希くんのいろんなところも見れたしね？）優希ちゃんとデートもできたしね（ニマニマ）」

「な！？か、からかうなよ！ほ、ほら、帰るぞ！」

「あ！待ってよ！優希くん！！！」

## 第8話

いざ、いかん！聖地へ！（後書き）

遅れてすみません！

昨日書こうって思ってたら、寝ちゃってました（キラッ

反省中・・・

じ、次回・・・赤の妹キャラ・・・ガクッ

## 第9話

赤い小さな妹キャラ

前編（前書き）

今回も、二つに分けます！

## 第9話

## 赤い小さな妹キャラ

## 前編

「・・・こちら、異常無し」

「こちらも、異常無しです。隊長。」

「よし、作戦を開始するううううう！」

「」「」  
「おうー！ー！ー！」

・・・

一方そのころ・・・

「今日は休みだああああー！ー！ー！」

自分の家でテンション高く叫びまくっている少年、水野優希がいた。

「さーて、今日は何をしようかな？やっぱり最近忙しくてできなかったゲームか？それとも、前店長にもらったマンガでも、読もうかな？くく、やりたいことがありすぎる！！ともかく遊ぶぞー！遊びまくるぞー！」

・・・・・・4時間後、時間は5時半

「ふあゝ、腹へったゝてもうこんな時間だよ。まだ、もうちょっと遊びたかったのに・・・」

晩飯の買い物ぐらいは行かなきゃ」

えーと、財布と携帯もったな？行ってきたゝす。

・・・・・・

さて、今日は何しよう？

腹へってるからちよつとガッツリしたのでも作るかな？

でも、だるいなゝ、よし！決めた！

今日は、簡単だしチャーハンでいいや。

そうと決まったら材料は・・・お、今日は何なのこの安さ！？明日とかのも買つとくか！

いや、今日セールだったのかよ、来てよかったよでも、なんか店でからずつつけられてんだよね・・・一応巻いとくか。

そう思った瞬間、走りだしてともかく角を曲がりまくった。相手も見失ったみたいだ。

『おい、あいつどこ行っただんだ!?!』

『これじゃあ、MFS作戦が使えるえだろ!?!』

『まだ、近くにいるはずだ!探せえ!』

なんか三人とも、声は聞いたことはあるんだけど・・・顔が見えねえ。ま、さつさと帰るか。

帰り道、なんか小学生ぐらいの女の子が疼くまっていた。さすがにほっとけないので声を掛けてみた。

「えーと、大丈夫?君?」

いきなり声を掛けたせいか  
その子はビクツとしたあとゆっくりこっちを向いた。

「大丈夫ですよ・・・ありがとうございますね・・・」

な、なんだってえええ!!? (。・111)  
何この子!? 可愛いすぎる! お持ち帰りiiii! したい!  
て、俺のバカ!? そうじゃないだろ!?  
助けなきゃダメだろ!?

「本当に大丈夫? お家に帰れる?」

俺がそう言った瞬間、その子は倒れた。  
て、大丈夫じゃないじゃん!?

俺は急いでその子に駆け寄り悪いと思ったが熱を測ってみた。

「・・・ごめんなさい、お家まで連れてつてくれますか?」

フラゲゲツトおお!

なんてやってる場合じゃねえ!

女の子をおぶって何処に行けばいいか聞こうとした時

「ちよつと待ったあああ!」

誰だよ!? こんな忙しい時に!?

後ろを見てみると・・・

「な!?! お前は!?!」



## 第9話

赤い小さな妹キャラ

前編（後書き）

ゆたかと出会った優希！

そして、いきなりきた男達！誰だろ？

優希は、ゆたかを家まで送れるのか！？

次回！赤い妹キャラ 後編！

## 第10話

赤い小さな妹キャラ

後編（前書き）

前編の続きです！

## 第10話

## 赤い小さな妹キャラ

## 後編

「な！？お前らは！？」

「……………あー、すいません。どちら様ですか？」

ボキッ！！！！（三人の心が折れた音）

『やっぱり…………俺達はここで終わるモブキャラだったのか…………  
（涙）』

『悪い白石…………俺達はもうダメだ…………あとは、ま、かせ…………  
（バタッ）』

『『うわあああああああああああ！！！！』』

「な、神山！？それに蒼井まで！？」

ちくしょー！！俺一人でもやってやる！

おいっ！水野！俺と勝負し…………って、いないし！？

どこいった！？あのヤロー！！」

……………一方そのころ優希達は

「こつちで、合ってる？えーと、・・・そういえば名前聞いてなかったね？」

俺、水野 優希。よろしくっ！」

「こ、小早川ゆたかです・・・あはは、なんか変な感じですね？」

改まってみるとなんか、恥ずかしいなあ」

「ん、下ろしたほうがいいかな？小早川さん？」

「あう、このままでもいいします・・・（なんでだろ？水野さんには、今日初めて会ったのに・・・なんだか安心できる・・・気がする）ちよつとまだ、気分が悪いんで寝ちゃってもいいですか？」

「ん、そう？なら、寝ちゃってもいいよ、小早川さん。（俺！？抑えろ！？お持ち帰りiiiiiiii！しちゃダメだ！目覚めるな、俺の野生！！！）」

.....

???side

．．．．今日は、みゆきさんのお家に行き、面白い話を聞いた．．．

みゆきさんのクラスメイトの話だった．．．

水野 優希さんという男の子の話が特に印象的だった．．．

みゆきさん達は基本４人での行動だったから、誰かな？  
と思ったから．．．

話を聞いてみると、とても優しい人らしい．．．

．．．．．

．．．．私は、今、チェリーの散歩の帰り道．．．

．．．．曲がり角を曲がる時、私の友達が知らない男  
の人の背中に乗ってるのを見つけた．．．

「．．．．ゆたかつ！！！」

「へ？えーと、こ、これは誘拐とかじゃないからね！本当だからっ  
！」

．．．この人！？ゆたかを誘拐しようとしてる．．．！

．．．私がゆたかを守る．．．！！

「・・・・・・・・ゆたかを離して下さい・・・・・・・・！」

「君、なんか勘違いしてない！？俺はただ小早川さんを」「水野  
おおおおおおお！！お前また、そんなかわいい子と・・・・！  
！・・・・コロス・・・・！」「」なんか、二人とも復活してるし！ゴ  
メン！小早川さんをお家まで連れてつてくれない！？お願い！それ  
じゃー！」

「只今より、MFS作戦を発動するっ！！！」

『『了解！！！！』』

「なんだよ！？その作戦！？なんの略だよ！」

「m」水野を      f」フルボツコに      s」しよう？      だあー！！！」

「なんでだあああああああああああああ！！！」

「・・・・・・・・ん？あれ？みなみちゃん？」

「・・・ゆたかつ！大丈夫！？・・・」

「うんっ！水野さんが助けてくれたんだ！」

「・・・え？水野さん？もしかして・・・あの人が？・・・」

## 第10話

赤い小さな妹キャラ

後編（後書き）

今回から、こなた達に次回予告してもらいます！

優希「次回！

白石VS水野・・・って、俺！？俺なの！？  
どうして、こうなった！？」



## 第11話

白・・・白・・・セバスチャン！

小さな子、小早川ゆたかちゃんと出会って、

なぜか白石に追いかけてから二日後・・・

「あ、すいちゃんおはよ〜」

「おはよ、つかさ・・・ってすいちゃんって俺のこと?」

てかなんで、すいちゃん?

俺の名前の中に『すい』はないぞ?

「あはは、それはね〜ゆーちゃんはもうこなちゃんが・・・」水野  
おおおおお! 勝負しろおおおおお!」 「またかよ!? とい  
うか、なんでそんなに俺と勝負したいんだ!?」 「お前を倒さない  
とこの嫉妬心が静まらないんだよおおおおお!」 「知るかあああ  
あああああああああ!」

「逃げるな!? 勝負しろおおおおお!」

「・・・・・・・・ぐすん（ i | i ）」

「だ、大丈夫だよつかさ！私も最近スルー気味だから！今は、耐えるんだよ！」

「あーあなた、それ自分で言っけて悲しくないか？」

「さみしいに決まってるさ、かがみ！ううー（＞人＜；）はやく帰ってきてね、優希くん（涙）」

・・・・・・・・

「で、勝負しろって何で勝負するんだ？」

「ふ、やっと聞いてくれたか。勝負の内容は・・・鬼ごっこだあああああ！」

なぜ、こいつはこんなに走れるんだ！？  
俺は、もう走りたくないのに！

「却下だ！せめてほかのにしてくれ」

「ルールは簡単。水野を妬ましいと思った人が水野を追いかけてフルボッコにできる多対一の鬼ごっこだ。いいな、よい・・・」

『『『『『『『『 RETS・PARTY!!』』』』』』』

「話聞けよ！？ちくしょう！なんで、こんな展開に・・・！バカデスの明久の苦勞がよくわかるぜ・・・！」

「ともかく、止めるおおおおおおお！！？」

「アホなことやっとなんとはよ、教室入れ！お前ら！」

『『『『『『・・・はい』』』』』』

「よーっしゃ！！なぜかは、知らんが生き残った！！」

「へ、白石め！ざまあ！（笑）」

「ところで、白石。この騒ぎは誰のせいや？」

「水野のせいです！」

「よし、水野。後で反省文な」

「え、俺！？ち、違いますよ先生！これは、全部白石のせいです！」

「はいはい、反省文書いた後で聞いたるから教室はよ入れ」

「俺じゃないのに！？しかも反省文書いた後で聞くて意味無いじゃないですか！？」

・・・・・・・・・・

こなた side

やっと私の出番！！

にしても、優希くんも不幸だね

まるで、どつかの主人公みたい・・・あれ？ってことは、フラグメーカーになるのかな？

「お、こなた。優希くん帰ってきたみたいよ」

かがみが見てみると、優希くんがゆっくりこっちのほうに  
来ていた。

「おーい、優希くん！大丈夫？」

「ぐす・・・うわーん！！こなた！かがみ！つかさ！みゆき！聞いてくれよ、黒井先生がひどいんだよ！（涙）

俺何にもしてないのに反省文書かされるし、書くことありませんって言ったら、課題まで出されたんだぜ！？ひどくね！？」

「ありやりや？取り敢えず優希くん、おっつ！」

「あんたは、一体何やってんのよ？」

「あはは、お姉ちゃんそれはね〜すいちゃんがセバスチャンに追いかけて、黒井先生に怒られちゃったの〜」

「・・・ごめん、つかさ。えーと、みゆきどういうこと？」

「つまり、えーと、セバスチャンさんが優希さんに勝負をもっしこみ、それが原因で黒井先生に怒られて優希さんが反省文を書いたということです。」

「みゆき、詳しい説明ありがとう」

「こなちゃん〜！お姉ちゃんが〜！（涙）」

「つ、つかさ大丈夫だから！つかさの説明はつかさらしかったから！」

なんか慰めてばかりだね、今回の私（一人）

「誰か俺も慰めてくれよ！？」

「お疲れ様です。優希さん」

「おお！みゆき、ありがとう（涙）俺の天使と呼ばせて・・・がっ！？」

む？ああ、そういう事。

私とかがみで同時に攻撃しちゃったんだね。

「あんま調子にのるんじゃないわよ、優希くん？」

「そつだよ、優希くん。かがみの言つとおりだよ？」

「えーと、何二人ともその後ろに見える黒いオーラみたいなの！？怖いから！分かった、何か言うこと一つ聞きますから許してください！こなた様！かがみ様！」

「ん？どうする、こなた？」

「かがみ、こうしよう。．．．．．」

「ああ、いいわね、それ（笑）」

かがみがこなたの話を聞いて嫌な笑いを浮かべていた．．  
．一体何されるんだ、俺！？

「じゃあ、優希くん？今日、優希くん家に遊びに行ってもいい？」

．．．．．へ？

「頼む！それだけは止めてくれ！家だけはダメなんだ！」

「あのー、泉さん？優希さんがこれだけ嫌がつてるので止めたほうが．．．」

「何かあるに違いないよ、みゆきさん！こりゃあもう行くしかないよー！」

こなた達にも、言わなくちゃいけないのか・・・

俺の過去の事を・・・



## 第11話

白・・・白・・・セバスチャン！（後書き）

こなた「こなたです。」

ズとかかも！

優希くんの家には、何かあるのかな？  
もしかしたら、私が買い忘れたグッズ

次回！失った宝！

ん？グッズ無くしちゃたのかな？」

## 第12話

## 失った記憶

・・・放課後にて

・・・放課後になってしまった。

家にこなた達を入れたら、マズイ事に・・・

だがっ！今の俺は少し違うっ！

説明しよう！とか言う人が俺を説明するぐらいイイ作戦を考えたんだ！

まず、トイレに行くとかなんとか言っただけ、ともかく逃げる！よし、完璧だ！

作戦が決まったらさっそく・・・

「あいたたっ？ヤバイ、腹痛いからトイレ行ってくるから」（棒読み）

「え？すいちゃん、大丈夫？」

「ん？優希くん、ま・さ・か・演技じゃないよね？」

ふ、そういう反撃は読めてたぜっ！

「なわけないだろ？そういうことだから、待っててくれー」

・  
・  
・  
・  
・

ふう、明日怒られるけどこれだけは知られたくないんだ！  
というわけで、鍵開けてさっさと入ろう。  
ガチャッとただいま。

「さて、何しよう？」

「「「「お邪魔します」「」「」」

「おお、入れはい・・・はいっ!？」

なんでここにこなた達がいるんだ!？  
は!？まさか、あとつけてたのってこなた達だったのか!？

「まさか、泉さんの言ったとおりだったとは・・・」

「むづ、すいちゃんひどいよ、約束は守らなきゃダメだよ。」

「優希くん、覚悟はできてるよね?。」

「アハッ ばれてたか、でもかがみん手加減無しだよ。」

「な、ちよ、かがみやめ・・・ぎゃあああああああああああ  
あああ!。」

.....

「はっ!?!ここはだれ?わたしはどこ?。」

「はい、ベタなネタはいいから、優希くん言うことは?。」

「痛いだろ！？もうちょっと女子っぽくしな」「そうじゃないでしょ！」  
「……もうしないので許してください、皆様！」

「ここはフラグ構築の為のガマンだよ！優希くん！」

……

「ところで、優希さん？あの写真に写っているのは？」

「……俺の母さんと父さんだと思う」

「え？すいちゃん、それってどういこと？」

「信じてもらえないかもしれないけど、俺には……記憶が無いんだ。」

「記憶が無いって……どうしてなの？」

「それは……俺も知らないんだ。」

「優希くん・・・記憶は戻らないの？」

「っ！・・・そりや戻せるなら、俺だって戻したいさ！・・・でもな、怖いんだよ！記憶が戻ったら・・・自分が自分じゃなくなるよ。うな気がして・・・今ここに生きてる俺を・・・偽者だと思いきうで！！！！・・・だってそうだろう！？ここにいるのは、本当の俺じゃないんだから！！」

言葉を言いきる前から、涙が止まらなかった。  
下を向いてると、かがみがこっちに來て・・・

パチン！！

「・・・っ！？」

「私達が今まで一緒に過ごしてきた優希くんが偽者？・・・ふざけないですよ！！優希くんは私達と過ごして楽しくなかったの！？時間の無駄だったの！？」

「そうだよ、かがみの言うとおりだよ！私たちが一緒に過ごした優希くんは決して偽者なんかじゃないよ！！優希くん本人だよ！」

「すいちゃんは偽者なんかじゃないよ！記憶が無くったって、すいちゃんはすいちゃんだよ！」

「優希さん、お願いですから、自分が偽者だなんて思わないでください！私達と過ごした時間・・・少しですけど、意味の無いものでは無かったはずですよ？」

みんな、涙を流してまで説得してくれた。

こんな俺でも、俺でいいいいのか？

俺はみんなの顔を今は、まともに見れないけどこれだけは言わなくちゃ・・・

「こんな俺を認めてくれて・・・ありがとう？・・・！！！」

・・・もう絶対に俺は俺ん偽者だなんて思わない！

いつか、記憶が戻っても・・・偽者だなんて思

われても・・・

今ここにいるのは、まぎれも無い・・・俺だ！

## 第12話

## 失った記憶

（後書き）

しっかり書けたか心配ですが、伝わったのかな？

今回は、キャラ無しだよ（〃 〃・）

自分の思いを伝えた優希、優希の思いを受け入れたこなた達！

じーかい！新たな宝！お楽しみに！



## 第13話

みんなでご飯！（前書き）

これまでの忘れられない宝物は・・・

「俺には記憶が無いんだ・・・」

「私達と過ごした時間は、優希くんにとって無駄だったの!？」

「ありがとう?・・・!」

仮面ライダー風にやってみました（笑）

では、本編をどうぞ！

## 第13話

## みんなでご飯！

ん．．．

寝ちやったのか、俺？

でもなんかスッキリした！いや、肩の荷が降りた？まあ、どっちでもいいや．．．そういや、こなた達は？なんか聞こえるなあ．．．

『．．．どこ．．．あ．．．？』

二階か？別に発見されても困るものは．．．ヤバイ！？

そういや昨日買った本がある．．．！

発見されてたまるかぁー！？

うおおおお、つと階段を急いで登り自分の部屋を開ける！

「こなたー！かがみー！つかさー！みゆきー！人の部屋で何やってんだああああー！？」

ビクッ！つと、 みんなが跳ねた

俺はというと、笑顔のまま．．．

「勝手に俺の部屋をガサ入れするなあー！？」

「や、やぁー優希くん。起きた？」

「よ、よかったわね、何も無くて」

「みゆきとつかさは何してたんだ？」

「私達はお姉ちゃんとかなちゃんを止めようと思ったんだよね？  
ゆきちゃん！？」

「え、ええ、ですが・・・その・・・なんといいましょうか？泉さ  
んが・・・」

「ん？こなたが何かしたのか？」

「えっと、男の人のロマンを見つけてしまったというか・・・泉さ  
ん！ゴメンなさい！」

「ああー！みゆきさん、それ言っちゃダメだよ！？あと、置いてか  
ないでー！」

「つかさも、でてたほうがイイぞ？」

「え！？・・・お姉ちゃん、こなちゃん。」

「ちょっとつかさ！？そんな人が死ぬのを見送る顔しないでよ！？別に死ぬわけ・・・ない・・・でしょ」

「ああー！つかさまで！？オンドウルウラギッタンディスカー！？」

「こなた、かがみ。少し頭、冷やそうか・・・」

・・・三十分後

「優希くん・・・説教で三十分もヒドイことを・・・あうー（Ｔ  
＾Ｔ）」

「こなた、もう優希くんにイタズラは止めましょ・・・」

「つかさ、みゆき。待たせて悪かったな。もう結構遅いし・・・帰ったほうがいいんじゃないか？」

「あ、それなら大丈夫。お母さんに今日食べて帰るって電話、も

うしたから」

「そうか、ならだいじょ……って、え！？まさか俺の家で！？」

「そういう事なのでお願いしますね、優希さん。材料はもうつかさんと買ったので大丈夫です。」

仕事早っ！？それなら、ダメとか言えねえじゃん！  
諦めるか……えっと、この材料は……カレー？

「うん！カレーならみんな食べれるでしょ？それとも優希くん、カレー嫌いだった？」

「いや！大好き！早く作ろうぜ！」

……

「すいちゃん、カレーのルーって何処にあるの？」

「ん？その棚の下のほうにないか？というか、材料買ったんじゃないのか？」

「あう、そ、それはね、カレーのルーだけ買い忘れちゃったの」

「なあ、こなた。つかさつて、ドジっ子なのに料理が本当にできたり、慣れてる感じがするんだけど・・・やっぱり最強のドジっぶりだけは見せてくれるんだな」

「そだよ〜でもね、優希くん！まだこの中に他の物は完璧！でも、料理だけはできない！しかも、影でしっかり努力してるのを敢えてさらけ出す人物がいるのだよ！その名は・・・」

「余計なこと言わんでいい！（ゴンッ！）」

「もきやーーーー！？」

「ほら、できたから早く食べましょ。」

「「「いただきます」「」」

「「いただきます！（トリコ風）」

まずは、一口・・・

うー、うまいー！！なんだこれ！？どうやったらこうなるんだ！？

「つかさ、これどうやったんだ！？レシピ教えてくれ！」

「え！？私は、普通に作ったただだよ？こなちゃんが隠し味に何か入れたと思うからたぶんその隠し味のおかげだと思っよ？」

「ふっふっふっ、私が入れた隠し味は・・・愛だよ！」

「は？なんだって？」

「だから、愛だよ！愛」

どうやって返事を返せばいいんだ・・・？

あ、愛の力か？確かに最高のスパイスっていうぐらいだしなっって返せばいいのか？

「泉さん、愛をどうやって料理したんですか？」

「あはは、冗談だよみきさん。本当は、煮込むときにちょっとグイグイとやったただだよ。」

なんだ嘘かよ！？ちょっと本当かと思ったのに！

・・・・・・・・

「あ、もうこんな時間だ。そろそろ帰らなきゃ」

「ん？なら、途中まで送るよ」

・・・・・・・・

「じゃ、私達こっちだからそれじゃ！」

「すいちゃん、こなちゃん、ゆきちゃんまたね」

「私もここで失礼します。それでは優希さん、泉さんを送ってあげてくださいね」

・・・・・・・・

「それじゃ優希くん！私もそろそろはいはい」

「あ、こなた！ちよつとまってくれ！」



「ん？どうかしたの？」

「なんで今日は、俺の家に来たいなんて言っただんだ？」

そう・・・なんでこなたとかがみは今日俺の家に来るなんて考えたのか分からなかった・・・もしや！

俺も主人公達の階段を登りだしたってことか！？

「なんだ？そんなこと？決まってるじゃん？・・・もつと優希くんのこと知れたかったからだよ・・・」

「へ？今なんて・・・」

「優希くん！またね」

こなたは最後になんて言っただんだ？

まあ、いいや。早く家に帰って勉強でも・・・

なんか忘れてる気がする・・・はて？なんだっけな？

## 第13話

## みんなでご飯！（後書き）

かがみ「かがみです！なによ、こなたは最後のほうで優希くんとい  
い感じになってるし、料理の腕も見せつけてるし・・・私の得意な  
ことでこなたに勝てるかしら？・・・はっ！？い、今言ったこと  
は優希くんにはヒミツだからね！？

次回！再びの出会い！

・・・もう！」

## 第14話

## 再びの出会い！（前書き）

これまでの忘れられない宝物は！

・  
・  
・  
・  
・

・  
・  
・  
・

特になあーし！？ダメじゃん！？

たぶん、一番短いと思います！

では、本編をどうぞ！

## 第14話

### 再びの出会い！

「ほーう、水野・・・？いい度胸しとるな？うちが出した課題をやつてないわ、あげくの果てに遅刻してくるわ、授業中に寝る・・・  
・面白いなあ、桜庭先生？」

「確かに黒井先生の言う通りですな。私の授業中は水野のせいで危うく大事故になるとこでしたよ。」

「さすがにそろそろしつかり教えたらとなあ？水野、課題二倍と拳で教える・・・どっちがええか選ばせたらう」

「先生っ！その選択肢は教師として、人としておかしいです！」

「なら、水野。しつかり私たちが納得できる理由を言ってみろ？」

「理由はですね、昨日モンハン3rdやっててですね？金レウスと銀レイア狩りに行ったんですよ？そしたらあいっらヒドインですよ！一発炎もらって、あゝ火傷めんどくさうって思ってた立ち上がりうとした瞬間、もう一発炎くらったんですよ！二回目は、毒で死ぬし・・・三回目は、壁際に追い詰められて突進の連続ですよ！？」

「あー、そりゃキツイなあ」

「でしょう！？朝までやつても倒せないですよ！？で、やつとさつき倒したんですよ！いや、なんか気分いいですね！一方的に切りまくると・・・あ」

「水野？目、閉じて歯あくいしばつとたほうがええぞ？」

「ちよつ、先生っ！冗談です！学校までPSP持ってきてるわけ・・・」「黒井先生、水野のバックからPSPがでてきましたよ」・・・（涙）

「おりゃ！」

「がふっ・・・！馬鹿な・・・威力が前とちがう・・・バタッ」

「二回目は、手加減する必要ないやろ？」

・・・

あれ？知らない天井だ・・・ここは・・・どこだ？  
保健室かな？ベットもあるし・・・

「目が覚めました？水野くん？」

「はい・・・えっと、天原先生なんで俺は保健室に？」

「ひか・・・桜庭先生から水野くんが頭を打って倒れた・・・と、

聞いてますが、大丈夫でしたか？」

あの人は・・・！体罰をもみ消すなんて・・・！そんなのありか！？」

「あの・・・失礼します。体調が悪いので、休ませてもらっても・・・あれ？水野さん！？」

「あれ？小早川さん！？どうしてここに！？高校生だったの！？」

「あうー、水野さんもやっぱり私が高校生って思ってたんですけど・・・私は、ただ人よりちっちゃいだけですよー！」

「ご、ごめんごめん・・・それよりも、小早川さん大丈夫？」

「あ、そうでした。天原先生、ベットを借りてもいいですか？」

「小早川さん、このベットを使ってください」

「にしても、水野さんと小早川さんが知り合いでしたか？」

「いやー、前に色々あったんですよ・・・じゃ、そろそろ帰りますね？失礼しました。」

「今度は、課題忘れちゃダメですよ？」

本当の理由、聞いてんじゃん！？

にしても、まさか小早川さんが高校生だったとは・・・

ん？高校生？

・  
・  
・  
・

可愛いすぎるだろオオオオオオオオ!!

バカな・・・!こんなことがあっていいのか・・・!

偶然助けた女の子が美少女で、しかもロリータ!

もう、フラグ立ったる!これ!

そういえば、こなた達は何処行っただ?

## 第14話

## 再びの出会い！（後書き）

つかさ「つかさです。次回予告しか出番がないなんて〜あう〜（涙）

本編のほうでもでたかったよ〜

次回！緑色の王子（？）！お楽しみに

」



## 第15話

緑色のクールな王子(?) (前書き)

これまでの忘れられない宝物は・・・

「三回目は壁際に追い込まれて、突進の連続ですよ!？」

「二回目は、手加減する必要ないやろ?」

「私は、ただ人よりちっちゃいだけですよー!」

では、本編をどうぞ!!

## 第15話

## 緑色のクールな王子(?)

### みなみ side

・・・ゆたかの具合が急に悪くなり、保健室について行こうとしたけど、大丈夫と言われた・・・

・・・でも、やっぱり心配になつて来てしまった・・・大丈夫かな？ゆたか？

・・・ん？保健室から誰かでてきた・・・あれは・・・！前にゆたかを連れて歩いてた人だ！

・・・どうして保健室から？

・・・まさかっ！？・・・一応聞いてみよう

「・・・あの・・・水野さんですよね？」

「えつと、・・・あ！前に小早川さんを任せちゃった人！？ごめんね？いきなりあんなこと言っちゃって・・・小早川さんなら、中にいるよ」

・・・あ、そういえば前に勘違いしちゃったんだ・・・  
・・・だったら、謝らなくちゃ・・・

「・・・前は、勘違いしてごめんなさい」

「いや、あの時は俺のほうが悪いさ。通ったのが君でよかったよ・・・知ってるかも知れないけど、俺水野優希！改めてよろしく！」

「・・・岩崎みなみです。よろしく願います・・・」

「それじゃあ、小早川さんよろしく。またね、岩崎さん！」

・・・男の子みたいな人だったな・・・  
・・・でも、なんだか前にもあったような気がする・・・

「失礼しました・・・あれ？みなみちゃん？」

「・・・あ、ゆたか大丈夫だった・・・？」

「もうみなみちゃんまで。でも、ありがとうね、みなみちゃん！」

「・・・うん、じゃあ帰ろうか・・・ゆたか」

・・・

「そうですか？みなみちゃんも優希さんに会いましたか・・・どうでした？楽しい人ではありませんでした？」

「・・・優しい人でした・・・」

・・・みゆきさんとゆかりさんが遊びに来てたので、みゆきさんに今日水野さんに会ったことを言い、水野さんのことを聞いてみた・・・

「水野さんは一見優しくて、誰にでも親切な人ですが・・・いや、これはみなみちゃんが自分で聞いてみるべきことですね。そんなあ

の人だから、泉さんやかがみさんが・・・」

・・・み、みゆきさんから何か黒いオーラが・・・一体何があつたんだろ？

・・・それにしても、水野さんの秘密だけが残った・・・

・・・それが、水野さんが優しい理由なのか・・・それとも・・・

## こなた side

あれ？私、一応主人公だよな？

なんで、二回もでてこなくて、ずーっとかがみ達と遊んだり、ネトゲ三昧なんだろうね？あゝあ、優希くんにもうちよつとアタック方法を考えなきゃ・・・おおっ！？こ、これは・・・！

## 第15話

## 緑色のクールな王子(?) (後書き)

みゆき「みゆきです。

てしまいました・・・

みなみちゃんまで、優希さんと出会っ

私の勝てる確率がどんどん・・・え！

？何も言ってますんよ！？

次回！ニマニマ(〃〃)

って、作者さん！？怒りますよ！？」

## 第16話

### 体育祭！前編（前書き）

これまでの忘れられない宝物は・・・

・・・

・・・

あれ？みなみちゃん視点しかないよ・・・？

では、本編をどうぞ！



あゝ、先生っ！せめて教えてっ！

行っちゃたよ・・・もー！？昨日のアレなら絶対勝たなきゃ・

・・・！

「こなちゃん？昨日のアレって？」

「それはね・・・ってやつなんだよ！つかさ！だから、がんばろっ！」

「えゝ！？黒井先生、どうやって手に入れたのゝ！？」

確かに・・・でも、今はどうでもイイ！

それだけは、みんなでプレイしなきゃ！

「そういえば、泉さん？優希さんはどちらにいらしゃるんですか？」

あれ？本当だ・・・あ、まさか！？

優希 side

ネトゲって・・・人を廃人にするよな・・・

今日は・・・何かあった気がするな・・・はて？何だっけ・・・

・  
~~~~  
あれ？携帯かあ・・・誰からだよ今いいトコなの  
に・・・

『もしもし、優希くん！？今何処！？』



「今？？家でずっとネットゲ三昧中。こなた、何で辞めたんだ？」

『優希くん、今日・・・体育祭だよ？まさか、忘れてた？』

「へ？あ、まあいいや。よろしくそれじ・・・」

「学年一位だったらご褒美があるらしいよー」

「さて、ヒーローは遅れて現れるもんだよな？」

『そだよ。また後でね』

やべえ！？飯用意する時間ねえ！？  
途中で買うか！行ってきたーす！

・・・

間に合わなかったっ！もう始まつてる！？  
点数差は・・・まだ、そこまでないな！いける！

「おい、優希くん！こつちよー！」

「かがみったらそんなに優希くんに会いたかつのかな？」

「やかましい！！ほら、あんたのでる競技もう始まるわよ？」

「ぬおっ！？マジですか！？それじゃー二人ともーまた後でねー」

「あ、すいちゃんだー！今、来たの？」

「優希さん、おはようございます」

「お、つかさとみゆきか？何処行つてたんだ？」

「私は、さっきのはーどる走で駆けちゃったから保健室に行つてたのー」

「私は、黒井先生に今の状態を知らせに行つてました」

「へえー、今は何処のクラスが一番なんだ？」

「今は、かがみさんのクラスが一番ですよ？」

「え？そうだったの、みゆき？てつきり引き分けぐらいだと思ったんだけど？」

「へ、でもかがみ！俺が来たからにはこっからが本当の勝負だ！」

「あー、優希くん？自分がどの競技にでるか知ってる？」

え？障害物競争だろ？何mリレーだろ？

普通じゃないか？

「あの黒井先生が遅く来た時は、競技内容を変えと言ってまして・  
・優希さんの出場する競技はこちらになりました」

「へ？そっなのか？どれどれ・・・嘘だっ！そんなの嘘だっ！」

## 第16話

### 体育祭！前編（後書き）

ゆたか「ゆたかです！高校初めての体育祭、楽しみだな〜！

中学校の時は出れなかったし・・・

高校では、でてみたいなあ〜

次回？体育祭 中編！またね〜！」

## 第17話

## 体育祭！中編（前書き）

これまでの忘れられない宝物は・・・

「優希くん、今日・・・体育祭だよ？」

「さて、ヒーローは遅れて現れるもんだよね？」

「・・・嘘だっ！そんなの嘘だっ！」

では、本編をどうぞ！

## 第17話

## 体育祭！中編

「俺がでるのは・・・借り物競争！？」

「そだよ。でも、何か今年はスペシャルバージョンらしいよ！  
しかも、全クラス対抗チーム戦だって！」

こなたが目をキラキラさせながら言った・・・  
あの・・・でるの俺なんだけど・・・というか何時の間に  
終わったんだ？

こうなったら・・・！

「こなたっ、お前もでようぜ！そうすれば勝てるっ！」

「はっはっは、優希くん！私はすでに出場がきまつてるのだよ！な  
ぜなら、黒井先生から直接頼まれたのだよ！」

ば、馬鹿な・・・！

俺は強制で、こなたは頼まれたなんて・・・！  
いつもは・・・いや、いつもどうりか？

「泉さんも、遅刻して黒井先生に言われたんですよ」

「オイ、こなた。全然違うじゃないか！？」

「って、みゆきさん。言ったらダメだよ」

「はあー、そういえばチーム戦だっけ？何人对何人なんだ？」

「三対三だよお、すいちゃんとかなちゃんとお姉ちゃんで三人だよ？」

「つかさ〜？これがクラス対抗戦ってこと忘れてない？」

「そだね〜かがみだけ毎回違うクラスだからね〜」

「・・・こなた？」

「か、かがみ？何かいつもと空気が違うんですが・・・すいませんでしたー！？」

あれは、怖いな・・・

あれ？何か前にもこんな事があったような・・・？

ピンポンパンポーン〜

『クラス対抗チーム戦借り物競争に出場する生徒は直ちにグラウンドまで来て下さい。繰り返します・・・』

「お、そろそろか。こなた行くぞ〜？」

「しょうがないわね〜、後で覚えときなさいよ、こなた？」

「もう忘れた〜」

「こ〜な〜た〜！！待ちなさい！！」

・・・・・・





じゃん！？『『『『『

誰が考えたんだよ！この企画！？

## 第17話

## 体育祭！中編（後書き）

もう・・・書いていいよね・・・？

優希「ん？何かだす物があつたのか？」

優希の・・・女装シーン！！

優希「ごふううう！？まさか、女子に似せるだけじゃなくそのものにしようだと・・・！」

次回はみなさんお待ちかねの優希が女の子に！

優希「やめろオオオオオオオ！？」

次回！      体育祭！後編      お楽しみに！



## 第18話 体育祭！後編

「何なんだよ、これ！？」

今、俺達の目の前にはもう、何だか・・・即、回れ右！しなくなる光景が広がっていた。

生徒達がここまでヒドイことになるなんて・・・

例えば、あっちの男子はずっとorsのポーズから動かないし・・・

そっちの女子はずっと、ヴァ！ヴァ！言ってるし・・・  
それにこっちの白石は・・・何だ、ただの屍か。

「何でだよ！？俺、死んでねえから！？」

「というか、白石何でここにいるんだ？お前は、この競技に参加してないだろ？」

「お前らに課題のポイント場所が書いてある紙を持ってきてやったんだよ。ほら、これが欲しければ謝るんだな、白石様、屍呼ばわりしてすいませんでした、って」

「じゃあなー、ありがと。こなた、みゆき、行くぞ」

「あれ！？紙が無い！？ちつくしよオオオオオ！覚えてるよ、水野！」

・・・

「結構課題があるポイント場所って・・・以外にすくないなあ」  
「んなので勝てるのか？取り敢えず・・・こなたは体育館のほうを、  
みゆきは図書室のほうを頼む」

「わかたよく、それじゃあね」

「それでは、水野さん、泉さんまた後で会いましょう」

俺は・・・部室のほうでも回るかな？

・・・

はあー、こんだけやってやつと二枚目か

一枚目は空手部のやつを三人倒す、二枚目は何故か軽音  
部でカラオケ！目指せ！100点満点！何て言われて、20曲目で  
一番の宝物を歌ってやつとクリア。

ところで・・・あの曲の名前なんだっけ？うーん、・・・あ！思  
いだした！だんご大家族！あれ、歌ってる子がいたんだよ。

「その人、こっちスよ」

こなたとみゆきはどれくらいカード集めたかな？  
聞いてみるかな？

「えっとー、こっちスよ」

「ヒヨリン！まだアキラめるのは、ハヤイよ！こうして、ゲームみたいにな・・・」

「おおー！パティ、それナイスアイデア！そうとなればさっそく・・・  
・おりゃース！」

「ぐえっ！？ごふっ、な、何しやがる！？」

「アナタがミてみぬフリでトオリすぎようとしたからデーす！」

「ウチの課題クリアしてくださいスよ、だれもやってくれないんですよ」

「当たり前だろ！？だってこれ・・・」

『コスプレ！女装嫁コンテストなんて誰がやるんだよ！？』

「ええー！？男子が恥ずかしがりながらやるこういうイベントが一番ツスよ！？」

「オーノ！？ジンセイをハンブンくらいソンしてまーす！？」

「「そんなあなたは」」「「ゼヒやるべきです！」」「やるべきっス！」」

な、何なんだ・・・！この子達・・・！

・・・って、やめる！引つ張るな！？

俺は女装なんかしたくないんだ！？

「そんな！？もったいないっスよ！？女の子みたいな顔してるのに！？」

「ジブンのアラたなカノウセイにキヅクべきです！ネコミミに、スクミズ！メイドにナースにセーラーふく！どれをとってもダイジョーブです！ソーゾーしてみてクダさい！」

ネコミミ装備！スク水装着！そんな美少女の顔は・・・

「やめるオオオオオオオオオオオ！？」

・・・

「こなた、どうだった・・・？」

「さすがにキツイね、二枚しか手に入らないよ」

俺達のチームはこれで四枚！

絶対に勝つなら六枚は欲しいな・・・

「みゆきは？どうだった？」

みゆきが二枚以上とっていてくれたら・・・この勝負、イける！

「私は、四枚です。」

「何でそんなにできんの!?!」

「こ、これはですね、科学部の理科の問題とかの勉強などでしたので、昨日、予習したところばかりでしたので(汗)」

もう、凄いです!

.....

『えー、競技の結果は・・・泉こなたさん!高良みゆきさん!水野優希くん!この三人のチーム・・・』

よっしゃー!この勝負、もらった!!

『・・・日下部みさおさん!峰岸あやのさん!柊かがみさん!の二チームです!お疲れ様でした!』

え・・・?それだけ・・・?

ふざけるなよ!?!がんばったのに、なんもナシ?それは、ひどすぎだろ!?!

『両チームリーダーには、各クラスへの賞品が贈られます!』

何だあるんじゃない?驚ろかせれなよ!さっさとくれ!!?



「優希くん！それ開けてみて！そっちは、なにが入ってる！？」

かがみに言われたとつり見てみると・・・俺のほうはっとな・・・  
な、何だってー！？

第18話 体育祭！後編（後書き）

まず、ひとこと・・・

遅れてすみませんでした！！

いやでも、やつらは突然くるんです！

防御不可なんです！（ゴンッ！！

じ、次回、未定・・・ガクッ

かがみ「え！？決まってるの！？」

## 特別編

7月7日といえば・・・（前書き）

やってみたかった、特別編！

そんな今日は、七月七日！ということとは誰の誕生日でしょう？

さてさて、そんな特別編ですが、どうぞ！

## 特別編

7月7日といえば・・・

「ねえ、優希くん？今日は、何日でしょう？」

こなたに簡単な質問をされた。はて？何日だったけなあ・・・  
あ、思い出した！

「七月七日だ！・・・ん？でも、なんで聞いたんだ？何かあったか？」

「はあ、優希くん？七月七日といえば・・・ってならない？」

うーん・・・はっ！？そういえばアレの日か！  
あれは忘れちゃいけないな！あぶない、あぶない・・・

「今日配信予定のあの装備だろ！？いやー、やっぱりあの彦星、織姫装備はプレイヤーとして手に入れとかなきゃな！」

「・・・優希くん、ワザとやってない？そこまでいけば分かるでしょ！？今日は七夕だよ！？年に一度しかない七夕だよ！？」

あ、七夕のことか。でも、何で七夕の事でこなたは熱くなってるんだ？

まさか、まだなんかあるのか？例えば・・・

「誰かの誕生日とかか？そんなやついたら、めでたいよね。七夕に誕生日なんて・・・」

「めでたくて悪かったわね！」

「うおっ！？びっくりした！あの～かがみ様？も、もしかして今日は、かがみ様の誕生日でございましたか？」

「やっと伝わったよ、ここまでくるのにどれだけ掛かる事やら・・・！」

「よし！それならさっそく・・・」

「ちょ、ちょっと優希くん！？いきなりどこ行くのよ！」

「ちょっと用事ができたんだ！後で、電話するから！」

・・・

さて、何故俺がでたのかお分かりだろうか？

もちろん、かがみの誕生日プレゼントを選びに行く為だ！！問題はどんなのにするかだけど・・・

うーん・・・かがみが好きそうな物・・・何だろな？

・・・

や、やっと決まった・・・

あとはこれを・・・ん？メールだ。誰から・・・あ。

『そろそろプレゼント一つ決まっと思ったと思うけど、つかさとかがみは双子だよ？私の言うこと、分かるよね？プレゼントは二ついるんだよ〜あと、かがみの家でパーティーだからね〜、早めに決めないと間に合わないかもよ〜？』

こなたさん・・・！それはマジっすか・・・！  
時間は・・・ヤヴァイ！早く選ばないと・・・！

・・・

ま、間に合った・・・わけないだろ！  
かがみ達の家知らねー！！？どうしろと！？

「あ！おゝい、すいちゃん！こっちだよ〜」

「おー、つかさか。ちよつと用があるんだけど・・・」

「え？なーに？いたっ！？すいちゃん、なんでデコピンするの？」

「俺が恥ずかしいからだよ！？頼むから、そんな大声で言わないでくれ！」

「うっ（＞・＜）分かったよ〜」

「取り敢えず早く入ろうぜ〜つかれた〜」

「あ！こつちだよ。そつちに行くと本堂の方に行っちゃうよ？」

・・・・・・・・・・

「なんかこの歳になるともうあんまり素直に喜べないわね」

「そつ？私は、やっぱりうれしいけど」

「ん？車の免許でもとるき？」

「いや、これで堂々とエロゲーできるじゃん」

「あんたは、今まででも堂々とやってただろ！」

・・・・・・・・・・

「ほい、二人とも。プレゼント」

「ありがとうね、優希くん。」

「わあー！すいちゃん、ありがと！開けてみていい？」

「あんたねえ、もらったものをすぐ開けちゃ悪いでしょ」

「えへへ、だって気になっちゃって・・・」

「開けてみてくれよ、喜んでくれるかな？ってがんばって考えたん

だぜ？」

「ん〜と、これは・・・ネックレス？青色の」

「私も・・・ネックレス？でも、緑色だよ？」

「その色が違うのはな・・・彦星と織姫。二人がいつまでも・・・いつまでも離れていても、いつかまた会えるようにって印なんだけどな・・・実は続きがあるんだよ」

「へえ〜、どんな続きなの？」

「それはな、未来でも会えるように・・・今度は、ずっと一緒に笑えるようにって思いもあるんだ。なんでこのネックレスを買ったかは・・・やっぱりいつまでも一緒に笑い合えるようにって証だと俺は思うな〜」

「そうか〜みんなの大切な証なんだね〜大切にしなきゃ！」

「私は、これからもずっと笑いえるようにってとこがいいわね〜まあ、ありがとね、大事にするわ。」

・・・・・・

まあ、最後はやっぱり・・・

「「「「「かがみ！つかさ！誕生日おめでとう！〜！！」「」「」「」





## 特別編

7月7日といえば・・・（後書き）

こんな感じでらき すたキャラの誕生日は祝っていきたいと思います！

優希「え！？俺は！？俺の誕生日は！？」

では、また次回で！

優希「スルーしないでくれよ！？」

スタッフ「あ、もう終わりましたよ？」

優希「理不尽だぁー！？」

第19話      体育祭？終わるよ？（前書き）

これまでの忘れられない宝物は・・・

だんご大家族スルーされる！？

では、本編をどうぞ

## 第19話

### 体育祭？終わるよ？

あれだけ大変だった体育祭は終わった・・・

特にあの借り物競争はだるかった・・・

最後がああなるなんて・・・

けどな誰も思わないだろう・・・まだ、体育祭の続きがあるなんて・・・！

・・・・・・・・・・・・・・・・

「優希くん！そっちには、何が入ってる！？」

「ん？こつちには・・・は？何も入ってねえー！！？」

え、何！？どゆこと！？誰か説明しろー！？

・・・・・・・・ま、説明ぐらいしてくれるだろ。

「あー、それについてはウチが説明したるわ。・・・ゴホン、確かにウチはがんばった人にはご褒美があると言った・・・けどな・・・ニクラスぶんは用意してない！！！」

『『『『『な、何だつてー！！！！？』』』』』

これだから大人ってやつは・・・！

約束を守らないんだ！そんなんだから・・・

「三十路超えるんだよ・・・（ボソツ）」

「・・・・・・・・！せりゃ！」（ヒュー・・・・・・・・パキユ・・・）

「ぎゃああああ！？音が・・・、人体から聞こえるはずない音がある！？」

何でこんなに離れてるのに、俺の鼻にマイクを当てられるんだ！？

人間技じゃないでしょ！？

「せやから、賞品についてはまた次の勝負が終わってからや！みんな、今日はお疲れさん！ちなみにあの競技を考えたのは水野や！」

へ？俺あんなの考えたっけ？

パキユ・・・

ここで、俺の意識が消失した・・・

・・・・・・・・

「で、かがみ。あれから何か黒井先生に言われたか？」

俺は、こなたとみゆきと一緒にかがみのクラスに聞きに行くことにした

「いや、全然。あれから何の音沙汰もなしよ。ま、楽しかったし賞品はべつに無しでもいいけどね？」

「えー、かがみん。本当は何か欲しくて仕方ないくせに。もうツンデレなんだから！」

「やかましいっ！ツンデレ言っな！」

「おいっ！ちびっ子！」

誰だ！？新しいキャラか！？  
後ろを見てみると男っぽい女子がいた・・・えっと誰？

「あー、えっと・・・どちら様だったっけ？」

「おま・・・この前自己紹介しただろっ！？柊のクラスの日下部みさおだってヴァ！」

ふーん、日下部みさおさんね  
あ！かがみのチームにいた人だっけ！？  
にしてもバって何なんだ？

「日下部さんとやら、バって何なんだ？」

聞いてみると日下部さんはじーっとこっちを見て・・・

「柊ー、ちびっ子ー！こいつだれ？」

「ああ、そういえば日下部は初めてよね。彼は、水野優希くん。っ

かさやみゆきと同じクラスの男の子よ」

「なあーちびっ子！柊が紹介する時の顔がわたしらを紹介する時と全然違うんだってヴァ」

「私もそれ思ってたよゝかがみってやつぱり・・・」

「（ニマニマ）あれだよね」

「何だよ！？こつち見んな！？」

こつちというの見てるとやつぱり・・・

「（ニマニマ）乗らないとなゝ（パキュ！）は、鼻が・・・！本日二度目の聞こえちゃいけない音がー！？何で俺だけ！？俺はただ乗るのがデフォだと思ったただけなのに！」

「お前は、なお悪いわ！」

「お前らは、隣のクラスまで来て何やつとるんだ」

「あ！桜庭先生、こんちゃ」

「全く・・・ほれ、水野。黒井先生から決着のつけかたはRPGオンラインらしい」

「ゲームで決着ですか！？桜庭先生それは向ここのクラスが有利すぎますよ！？あつちには、体育祭までずっとゲームしてたバカがいるんですよ！？」

あれ？目が滲んで見えないや・・・

なっ、泣いて無いんだからね！？本当だよ！？

「クラス対クラス。全員なら、何人が得意なのがいるだろ？」

「「「「「何でそれを全員でやるの！？」」「」「」」」」

どんだけ遊びたいんだ、あの先生！？

そこまでクラス対クラスにこだわるなよ！



## 第19話

## 体育祭？終わるよ？（後書き）

みさお「みさおだってヴァ！」

何だよーあの水野ってやつ・・・

柊はウチんだ！

次回！ラッキースターユニバース！

ゲームかぁー、負けねえってヴァ！」

## 第20話

## ラッキースターユニバース！（前書き）

緑の森      そびえる城

そんな中、一人の少年が走りまわっていた。

その後ろには、仲間がいつぱい

そんな世界の名前は、ラッキースターユニバース

PCとゲームが交わる時、物語は始まる！（笑）

## 第20話

## ラッキースターユニバース！

「もういやだぁー！？なんで！？どうして、こんな始まり方ばかりなの！？」

俺はただ宝箱ばかり開けてただけなのに！

なんでこんなに敵がいるんだ！？

あー、もうしつけれー！こうなったら・・・やるしかないか！  
そう言いつつ俺は、背中の大剣を手取る・・・

「せいやぁー！！」

後ろにいた敵をズバツと斬る！すると、剣から衝撃波みたいなのがでていき後ろのほうにいた敵を切り裂いていった。本当に便利だな！この剣。ま、俺はこのゲームではそうそう負けないだろ・・・なぜかって？それはもちろん・・・このゲームやってたからだ！！

・・・

ふー、疲れた！やつぱり倒すのは疲れるな・・・

確か、この森を抜ければいいんだよね？・・・って、オイ  
い！？何だよ、これ！？

森を抜けた先で俺が見たのは、クラスメイトそっくりにデフォルメされたキャラ達が倒れてる光景だった・・・！

「・・・っ！白石！ここで何があった！？」

「う・・・水野か？・・・へへ、いつもお前を追いかけて回してるのにこのざまとはな・・・水野、一つだけ言ってもいいか？」

「ああ！頼む！お前達の仇は俺がとるから！」

「俺・・・みゆきさんが好きなんだ・・・」

今、か ん け い ねえ だ ろー！！

もう、知るか！つと言わんばかりに白石（だった物）に八つ当たりしようとした時、いきなりクナイが飛んできた！？あぶなっ！後ろを見てみるとウサ耳にブルマという完全装備とイタチみたいなのおっとりした感じのパンダがいた・・・

「誰だっ！？危ないだろ！？」

「いや、あんた達のクラス全員倒さなきゃいけないし・・・仕方ないでしょ」

「あと、何人残ってるんだってヴァ」

「柊ちゃん、みさちゃん。あと、ちよつとがんばろ？」

ちよ・・・まずい、まずい、まずい！

あつちのクラスの主力メンバー全員と戦わなければ行けないんだー！？

本当に俺が何をしたと！？

「かがみ、待て！3対1は卑怯とは思わないのか！」

「あんたねえ、自分の装備見てから言ったら？」

え？こんな装備誰だつて持つてるだろ？

LV55以上のボスを三体連続で倒せば手に入るぞ？

「そんなの今日、昨日じゃできるLVじゃないんだってヴァー！この卑怯者！」

「卑怯？何を言ってるんだ？」

「さすがに、LV差が50もあつたらね・・・」

「よし、この際言つといてやる！卑怯、汚いは敗者の戯言だ！」

「あんたは、どうしてゲームになると卑怯な手段でも使っただ！」

「柊ー、そろそろ戦おうぜ」

「えっと、水野くん・・・で合つてたかしら？私は、あんまり戦いたくないんだけど・・・」

「仕方ないわよ、峰岸。じゃあ優希くん・・・いくわよ！」

「え！？ちょ、待ってえー！？」

かがみは、言った瞬間俺に殴りかかってきた！

速っ！？それ、LV30の攻撃力じゃねえから！？

「くっ！」

剣で防ぐけど、後ろから峰岸さんがスキルを・・・！

「スキル発動っ！みさちゃん、今よ！」

「任せろー！覚悟しろよな、水野ー！」

笹の葉みたいなのがいっぱい飛んできた！確かあのスキルは・  
・・！

相手を閉じ込めるやつだ！

「おりゃー！」

クナイで切ろうとしたところをカウンター気味に大剣でいなして、斬った！どうだ！？だてにネトゲ廃人やってないぜ！

「甘いんだってヴァー！」

は！？なんで後ろにいるんだ！？

とにかくこれはヤバイ！よけきれな・・・ぐっ！

さっきの戦いで技使うんじゃないかった！

「よし、一気に畳み掛けるわよ！」

ここは逃げるしかないな・・・！

あれ逃げられねえ！？何だこれ！？忍者のスキルか！？

「忍者のスキルはやっぱり便利ねー影踏み・・・だっけ？ま、何は

ともあれこれで優希くんは離脱ね？」

「これで終わりだってヴァ！」

や、やり慣れてる！？

追いこんで逃げられなくて・・・

ここまでか・・・！（アイテムしか集めてません）

「おれ、さんじょー！」

「この声は・・・こなたね！？」

「さすが、かがみん。私のことよく分かってる」

「うつるさい！あと、かがみん言うな！」

「油断したねーかがみ？今だよ！」

こなたがそう言った瞬間、ズバツと俺が作った衝撃波より  
大きいのがこつちに飛んで・・・って、俺ごとやるきかぁー！？

ドバーンー！！YOU WIN！

俺ごと、やらなくてもいいじゃないか・・・！

「私達の負け！？ほかのみんなは！？」

「お前らが水野の相手をしとる間にとくにゲームオーバーで？」

「黒井先生！？どうして、ゲームに参加してるんですか？」

「おお、いい質問や！峰岸！ウチはこう言ったやろ？『クラス対クラスでやるでえー！』って」

「それじゃあ、桜庭先生は・・・」

「桜庭先生はめんどくさいんでパスする言ってたで？」

「そんなの無いんだってヴァー！？」

・・・・・・

「先生っ！賞品はなんですか！？」

なんで俺は殺されたんだ・・・  
って、そうじゃない、そうじゃない賞品だ！

「聞いて驚くなよ！賞品は・・・」

『ワクワクワクワク』

「さっきのゲームでの思い出が君達の賞品や！大事にとつとくんや



で  
」

「先生！それは、あんまりです！」

俺は何の思い出も無いんだけど！？

アイテムは全部落とすし、かがみ達に倒されかけるし、ト  
ドメに黒井先生とこなたには倒されるし・・・イヤな思い出ばっか  
りだぁー！？

こうして体育祭は終わりを告げた・・・

不幸だぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！

## 第20話      ラッキースターユニバース！（後書き）

早くも、スランプ状態に（Ｔ＾Ｔ）

優希「まあ、色々あったもんなく補習とか補習とか補習とか」

くっ！言われたくないことを！

ゴメンなさい！家に帰っても書く気がでませんでした！

次回、7月20日といえば・・・

では、また次回で！

特別編

7月20日といえば・・・（前書き）

第二回目！ということですが、そく本編をどうぞ！

特別編

7月20日といえば・・・

「は？かがみ今、何て言った？」

俺たちは、教室であゝりがたい授業を終わってさあ、帰ろうか？って時にかがみが・・・

「今日、日下部の誕生日何だけど優希くん達も来ない？お祝いに？」

日下部って・・・あの日下部か？ウァ！って言う・・・

まあ、特別嫌いつて訳じゃないけど・・・俺達も行っていないのか？

一緒にゲームしただけだぞ？

「みさちゃんにとって遊んだら、自己紹介したらもう友達だから・・・あ、峰岸あやのです。よろしくね？」

「柊つかさです。峰岸さん、よろしくね」

「高良みゆきです。峰岸さん、よろしくお願いしますね？」

「泉こなただよー峰岸さん、よろしくー」

「水野優希です！よろしく！」

さて、んじゃ日下部のどこにも行ってみるか！

「柊ー、あやのー！こっちにいたのかー？」

来るのかよ！？お前のタイミングの良さに、俺が泣いたよ！  
って、そうじゃない！

「日下部ー！今日、お前の誕生パーティーに俺たちも行っただかいかな？」

「ちょっと待ってってヴァー！どうしてそうなるんだってヴァー！？」

「いや、俺達も峰岸さんに誘われたばかりで・・・」

「あやのー！ちびっ子達はともかく、何でこいつまで誘ったんだよー！（柊は、ウチんだ！絶対に負けねえぜ！）」

「・・・ガーンン！・・・そうか・・・悪かったな、じゃあな」

「あつ！ちょ、優希くん！？」

「あれ？水野、どうしたんだー？」

「ちょっとみさちゃん！言い過ぎよ？断わるにしても違う言い方があったでしょ？」

「う・・・ちょっと探して来るんだってヴァー！」

・・・・・・・・・・・・・・・・

うーん、水野どこに行ったんだってヴァー！

って、いた！何か持ってるけど・・・今は、どうでもいい  
ぜ！

「水野！言い方が悪かったぜ・・・悪かったなー」

「ん？何の話だよ？別にもう終わっただろ？はい、これプレゼント」

「あ、ありがとな！今から、早く帰らなきゃ間にあわねーぜ？」

「よし！行くか！ちなみにそのプレゼントの意味は・・・」

「意味何かいいから、いいから早く行くってヴァー！」

・・・

「みさちゃん、すいちゃんと仲直りできたの？」

「できたけど・・・そのすいちゃんって・・・水野のことかー？」

「仲良くなったら、あだ名とかで呼ぶんじゃなかったの？みさちゃん？」

「じゃあ、俺はみさおって呼ぶから、好きなように呼んでくれ」

「な、何か照れるぜ！これからは友達とライバルだぜ！」

別にいいんだが・・・何のライバルなんだろう？

・・・

「じゃあ、最後に・・・」

「「「「「みさお、誕生日おめでとう！」「」「」「」

特別編

7月20日といえば・・・（後書き）

はい、時間がありませんでした！（涙）

次に繋げられないよう！

特別編は難しい！この一言に尽きるー！

やっぱり話はしっかり考えないとねーキツイよ）；。；

では、また次回で！



第20話      日常・・・アニメじゃないよ! (笑) (前書き)

最近、暑くなりましたね (汗)

学校に行くときとかも、ひどくてひどくて・・・

でも、書いてみせるっ! ( = = . ) ビシッと!

あ、でも今回短いやつ! ? ( = = ; )

では、本編をどうぞ!

## 第20話

日常・・・アニメじゃないよ！（笑）

「こなた！今日こそリベンジだっ！」

「ふっふっふ、優希くん？私に勝てるかな？」

「あんたは、俺が倒すんだ！今日、ここで！」

俺はこなたにゲームで勝負を挑んだ！

なぜかって？最近、負け続きだからだよ！？

あと、ちよっとつてところから逆転されるんだよね

ちなみにゲームは、ガンダムだぜ！

「俺は、いつも通りソードストライクで行くぜ！」

「私は、イージスでいいや〜」

「パイロットはやっぱりキラだな〜」

「やっぱりアスランでしょー！」

「

こなたさんっ！それはマジっすか！？イージスで俺と勝負するなんて・・・

はっ！？まさか、手加減されてる！？・・・その余裕いつまで持つかない！

『ミッションスタート！』

手始めに、速攻で行かせてもらう！

そう言った瞬間、俺は一気にこなたの近くに行く！

その間、むちゃくちゃビームを撃たれるけど気にする必要はないぜ！

「うりゃあああああ！！！」

俺のビームサーベルがこなたのモビルスーツを斬りまくる！  
みるみる体力が減っていくこなたのモビルスーツ・・・あ、  
爆発した。

ふ、はっはっは！これが、連邦の白い悪魔の力か！

「な、何ですとー！？まさか、一機も倒せずに一機やられるとは・・・  
優希くん、恐ろしい子・・・！」

「このまま勝たせてもらうぜ！こなた！」

「甘いよ！優希くん？」

「な！？ライフルだけで何か死んだー！？何で！？？」

「ふっふっふ、戦いはここからだよ、優希くん！」

「キラあああああ！！！」

「アスラあああああん！！！」

・・・・・・

「なん・・・だと・・・！この俺が負けただと・・・！」

「あぶなかった・・・最後に悪は滅びる！」

「ちょー！？俺は悪かよ！？でも、また勝てなかったか」

「お、そういえば優希くん？みさきちの誕生日プレゼント、何あげたの？」

「ん？唐突だな？俺があげたのは・・・ブレスレットだよ」

「へー、かがみ達みたいに意味とかあるの？」

「意味かー、確かあの石には・・・いつまでも、ずっと元気で大好きな人というだったはず・・・」

「かがみ達の時もだけど、優希くんって・・・以外にロマンチスト？」

「なっ！？・・・もう、この話は終わりだぁ！次は、これだ！」

「えー、まだ聞きたかったのに・・・えっと、クライマックスヒーローズ？って、さっきから優希くん自分の得意なゲームに持っててない？負けてるけど」

「俺は、ブレイド！ほら、こなたもさっさと選べよ」

「しょうがないな、負けても知らないよ?」

「ほっとけ!よし行け!ロイヤルストレートフラッシュ!」

「なんのー!サイ!ゴリラ!ゾウ!サゴーズ・・・サゴーズ!」

## 第20話

日常・・・アニメじゃないよ！（笑）（後書き）

あやの「あやのです。今回は、出番無しか」

すいちゃんと泉ちゃん、楽しかった

かな？

次回、全員集合！誰が集まるのかし

ら？

それじゃあ、またね？」

第22話 全員集合！（前書き）

いきなり、本編にどうぞ！

## 第22話 全員集合！

「あ・・・暑いー!？」

「うつさいで水野！ウチも暑いんやから、がまんせんか！」

「だって俺の席、日差しが一番酷いんですよ!?!いつもは寝てる時間でも、寝れないんですよ!？」

「うつさい！黙っとけ！」（ヒュン）

チヨークがおでこにー!?痛っ!?

何か・・・違う始まり方は無かったのかよ・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・

かがみside

「つて、ことがあったんだよねゝすいちゃん痛そうだったんだよね、お姉ちゃん」

「はゝ、何やってんだか・・・あれ?でも、今優希くん居ないわね?」

「優希さんは、保健室に行きましたよ?」



「ふーん・・・こなたは？」

まさか優希くんについて行ったとかじゃないわよね？

「すいちゃんについて行ったと思うけど・・・そうだね、ゆきちやん？」

「多分そうだと思いますけど・・・かがみさん？何処に行くんですか？」

「私達も行ってみましょ」

あいつ、ちよくちよく優希くんについて行ってるわね・・・  
は！？そうじゃない、そうじゃない。

・・・・・・・・・・・・・・・・

優希 side

おでこ痛い

てか何でこなたも来てるんだ？

「え、だって優希くん最近主人公補正かかってきてるし、何かありそうだしね」

「どこの話だよ！？」

「お前らな、保健室でぐらい静かにしたらどうだ？」

「あ、桜庭先生こんちゃ、どうしたんですか？」

「どうしたも何も・・・サボりに来たに決まってるだろ」

「いや、そんなドヤ顔されても・・・あ、そういえば桜庭先生」

「ん？何だ、水野」

「科学の補習を無しにしてください！あんなのムリです！」

「だから、そんな大きい声をだすな！人が寝てるんだぞ！」

人が寝てたの！？悪いことしたな・・・

「あ、水野。お前が知ってる人だぞ？」

俺が知ってる人？

みさおか？それとも、あやの？

ちなみにあやのに彼氏がいた事を後で聞いたんだけど、あやのでいいらしい

何か自分だけ名前で呼ばれないのはイヤらしい・・・

あ、誰かベッドからでてきた・・・あ！

「あれ、水野さん？何でここに？」

「小早川さんだったの！？ゴメンね？うるさく・・・」

「あれ？ゆーちゃん、また気分悪いの？」

「もう大丈夫だよーお姉ちゃん」

へ！？何！？どゆこと！？

・・・・・・・・・・

えつと、二人の話によると・・・

こなたと小早川さんは従姉妹らしい（＾－＾）／

ええええええええええええええええええええええええ！？

何ていうミラクル！？

「あー、てことはゆーちゃんが言ってた人って優希くんのことだったの？」

「そうだよー！私も、お姉ちゃんと水野さんが友達だったなんてびっくりしたよー」

「・・・・・・・・失礼します・・ゆたか？泉先輩に水野先輩も・・」

「みなみちゃんーゴメンね？私、もう大丈夫だよ？」

「・・・・そう・・よかった・・」

「みなみちゃん・・・・」

「ゆたか……」

何か……とってもいいモノを見た気がする……

「ダメっす……！友達をこんな腐った目で見ちゃダメっす！」

この声は……！

俺はこの声の奴に会うわけにはいかねえ！？

「悪いな！ちよつと用ができた！」

「ちよ……！優希くん！？何処行くの！？」

「あ！あなたは体育祭の！？ちよつと絵を書かせて欲しいっす！」

「見つかった！？捕まるわけにはいかねえんだよ！もうあんなことされてたまるか！」

「さっきの田村さんだよな？みなみちゃん？」

「……そうだと思う……」

「ひよりんも何やってんだかね」

……

お！あれは、かがみ達！かがみさま！

助けてくれ！……もしかして、知り合いとかじゃない

よな？

「あれ？優希くん、田村さん、どうかしたの？」

最悪の状態だあー！？

今日は・・・いや、今日も不幸だあ！

「おとなしく、書かせてくださいよ」

ヤバイ、あの目は危険だ！

オタクなら分かる！つてぎゃあああああ！？

それきり優希の姿を見た者はいなかった・・・

「勝手に殺すなあああああ！！！！」

## 第22話 全員集合！（後書き）

えっと、遅れた理由はですね・・・（大汗）

バイトが忙しいんです！？

だから、夏休みが終わっても更新が遅れると思いますがお願いします！

では、また次回で！

## 第23話 ココロオドル！（前書き）

では、本編をどうぞ！

## 第23話      ココロオドル！

あ、暑い・・・何でこんな日に学校に行かなくちゃいけないんだ・・・！

「先生！俺だけ追試を今受けてもいいですか！？」

「ん？どうかしたのか？」

「高校生最後の夏休みですよ！？最高の思い出を作らなくちゃいけないですよ！」

「その前にお前は受験生だろうに・・・まあ、それはそうだな・・・」

先生が悩んでる！畳み掛けるならいまだ！

「先生お願いします！今なら限定物の例の物を渡しますから！」

「・・・よし、水野以外今から課題を終えたら帰ってもいいぞ」

「って、何で俺だけが帰れないんですか！？」

俺、何か悪いこと言ったか！？

ただ先生が欲しがってたBL本をあげようと思ったのに！  
・・・何で俺がこんなの持つてるかかって？

前追いかけられた・・・田村？さんになんか知らないが  
もらった・・・

いつとくけど俺はガチじゃないからな！！



「ほら、このテストが終わったらお前も帰ってもいいから早くやれ」

「さ、桜庭先生！ありがとうございます！」

さて、さっそく終わらせ・・・はい！？

先生！これ、俺が一番嫌いなトコばかりのやつじゃないですか！？

「気のせいじゃないか？早くやらないと帰れないぞ？」

なんて汚い方法を・・・！

くそっ！こんなの出来るワケ無いじゃないか・・・！

・・・・・・・・・・・・・・・・

や、やつと終わった・・・

なんだよ！科学なんて分かるかぁー！！

まあ、いいや早く帰ろ・・・

《夜更かしが好きだ！邪魔されず戯れていたーいお年頃・・・》

なんだ！？こんな曲設定したか！？

まあ、でてみるか・・・ポチツとな

『優希くん、びっくりした？』

「こなたか？って、お前だろ！？俺の携帯の着信音変えたの！？」

『あはは、びつくりさせようと思ってこっそり変えてたんだ〜ゴメンゴメン』

「はあ〜・・・で、何の用だったんだ？」

『あー、ゴメン。・・・忘れちゃた』

「って、おい！？意味ねえじゃねえか！？」

『じょーだんだよ〜えっとね？今度ね、みんなで海にでもいかないか〜だって？』

う・・・み・・・？

海ってことはみんな水着だよな・・・？

みゆきとかかがみとかあやのとかの水着姿ってことか・・・

？

・・・ふっ

なってしまった・・・か・・・ヒステリアモードに・・・！

「任せろ、もう準備は終わった・・・さあ、いつ行くんだい？姫？」

『そんなヒステリアモードみたいに言われても・・・まだ、日にちは決まって無いんだよね〜じゃあ決まったら、また電話するよ〜』

「な、こなた！？待て！待って・・・」

《プツ・・・プープ・・・》

ヒステリアモードみたいにやるんじゃないかなかった〜！？

でも、海かぁー・・・え？海・・・？  
や、やばい・・・！俺、実は・・・

こなた side

ふー、優希くんを誘ったしあとは・・・

『もしもし？ひよりっす』

「あ、ひよりん？今度、みんなで海に行くんだけどさぁ・・・」

・・・

よし、ひよりんにも話したし・・・

これで例の計画に実行できる！

・・・何か、前にも私こんなラスボスみたいなことやって  
たよね？

## 第23話    ココロオドル！（後書き）

みんなぁ！私に力を分けてくれっ！

優希「元気玉みたいにか？」＼（〃 〃；）／

力の分け方は感想をくれる度に増えていくよ！

優希「簡単な話感想が欲しいだけだろ！」

がんばって魔人プーを倒そう！！」

優希「誰だよ！？魔人プーって！？」

優希・私「」では、また次回で！！」」

## 第24話

夏だ！海だ！！（前書き）

夏休み      残りちよつとで      どうしろと！？by彼方

課題をやらないと成績に響きまくるなんて聞いてないよ！？

というワケで本編をどぞ！（涙）

## 第24話

## 夏だ！海だ！！

「夏だ！海だ！というワケで二人ともお願いしまーす！」

今日は海に行くのにバツチリの真夏日和だな〜・・・暑い俺達は、いつものメンバーに小早川さんと岩崎さんを加えた七人で海に行くまでのどっちに乗るかはなしてた時だった

「よっしゃー！任せとき！」 「ゆい姉さんに任せたまへ！」

「で、ウチの車に乗るのは誰や？水野、行くか？」

「（先生のせいで）酔いそうなんでやめときます」

だって黒井先生の運転だしな〜

って先生！？アイアンクローは前と後ろからやるんじゃないんですね！？

「かがみ達はどつするの？」

「私は成実さんのほうで行こうかな？安全運転だろうし・・・」

「私も成実さんのほうにしよう」

「では、私もこちらにしますね」

ん？何かこなたの目が光ったような気がする・・・気のせいかな？

「んじゃ、私はななこ先生のほうで行こうかな」

「みなみちゃん！私達も黒井先生の車で行こう！」

小早川さんも岩崎さんと一緒に行こうとしてるみたいだ  
けど、こなたと小早川さんは成実さんで行こうとしないん  
だ？

たまには、他の人の運転で行こうとしたのか？

「・・・ゆたか？どうして焦ってるの？」

「お願い・・・！みなみちゃん・・・！」

「・・・うん、わかった。・・・一緒に行こう、ゆたか」

「ありがとう！みなみちゃん！」

何か小早川さんの目が潤んでるように見えた・・・

例えば、人を助けたー！みたいな目をしてたように見えた・

・・・why？

あ、こなたがグッジョブ！ってやってる。

このシチュエーションに関してなら確かにグッジョブだ！

「さらば友よ！願わくはまた会えることを・・・！」

「大袈裟ねえ、ちょっと会わないだけじゃない」

「あはは、またね、こなちゃん。ゆたかちゃんとみなみちゃんも」

「じゃあ、そろそろ行きますか、みんな、ゆい姉さんについておい

で」

「ウチらも行くか！みんな準備はええな！」

・・・・・・・・・・・・・・・・

かがみ side

さすが交通安全課だけはあつて乗り心地はいいわね  
優希くんなんか前の席だからって寝ちやてるし・・・はっ！  
？ち、違っわよ！？これは、その・・・何でも無いわよ！？

「そういえば、交通安全課でもルールの確認とかするんですか？」

「そーよ、交通ルールは任せたまへ。・・・あ、追い越し」

「へ？」

「このヤロー・・・」

ちよっ！？おーい、交通安全課ー！！  
後ろに私達も乗ってるから！？やめてって、きゃあああ  
ー！？

うわっ！？ガードレールぎりぎり！？

「仕掛けるポイントは・・・この先5連続ヘアピンカーブ！！」



「はいっ！？何がどうなってんの！？起きたらいきなりレースの途中で最高の山場っぽいところ！？」

あ、優希くん起きちゃったんだ・・・さすがにこの運転で寝られないわよね

ってそんなこと考えてる場合じゃなかった！？

曲がり・・・きつた！怖かった・・・！

レースには勝ったけど・・・

「何なのこのチヨメチヨメD的な走りはー！？」

「ぎゃあああああー！！（優希）」

・・・・・・

こなたside

「ななこさんってさ・・・上手だよね、車の運転」

「ええ、そうか？」

「こなたね、本当は車に乗ると酔っちゃうの・・・だからね、酔い止めの薬持ってきたんだけど・・・ななこさんの運転だとちっとも気持ち悪くならなかったよ」

「ああ？って、こんな状況でツッコんだる余裕無いわー！」

「お姉ちゃん、酔い止めのお薬ちょうだい？」

「はい、ゆーちゃん。あと、お水」

「ありがとう、お姉ちゃん！」

やっぱりゆーちゃん見てると保護欲というか、守らなきゃいけないって気持ちになるんだよね

それはともかく、黒井先生？

「今回私たちが行くのは山じゃなくて海だよ？」

「分かつとるわ、んなこと！」

今更だけど迂闊だった・・・！

ゆい姉さんの運転が酷いのは知ってたけど

まさか、黒井先生は方向音痴だったなんて・・・！

両方ハズレだったなんて・・・！

今日、本当に海に行けるのかな？

・・・・・・・・・・・・・・・・

優希 side

カー、カー・・・カラスが・・・鳴いてる



## 第24話

## 夏だ！海だ！！（後書き）

優希「おい、彼方？ちよ〜と話があるんだけどな」

何なのよ？人が一生懸命働いてきた後に？

優希「題名と話が全然違うじゃないか！？」

海まで行けなかったのは私のせいじゃないわよ！  
というワケで次回も続きます！

優希「今度はしっかり、夏だ！海だ！！」っていえるんだろうな？」

大丈夫！、山だ！海だ！！、にはならないから！  
では、また次回で！

## 第25話

夏だ！海だ！にっ

（前書き）

海と優希とHSS！

さて、何でヒステリアモードがあるんだろ？

では、本編をどうぞ

## 第25話 夏だ！海だ！につ

どうも・・・優希です・・・

昼間のせいで、テンションがあがらね〜

目が覚めたら何だよあのレースは！？もうゆいさんの車には絶対乗らないっ！

はあ、一人だけ別部屋になるのは仕方ないが・・・やっぱり寂しいな・・・

当然ここにはパソコンは無いし・・・やること無いしもう寝る！

うう〜何か向こうの部屋から楽しそうな声が聞こえるのに俺は入れないなんて寂しいな・・・

・・・

・・・ん、何か聞こえる？誰だよ、こんな夜中に・・・

ふすまから顔を少しだして見てみると、つかさがいた。

って、こっちからゆいさんもでてきた？どこに行くんだろ？

あっちはトイレだっけ？じゃあ、俺が気にする必要ないな。戻るか〜

「きゃあああああああああ！？」

何だ！？さっきまで二人共普通だったのに！？

「ゆいさん！？つかさ！？どうした、ってうお！？何だよこれ！？」

「スケキヨです」

「あ！？すいちゃん！？」

「つかさ！？怖かったのは解ったからこっちに飛び込んでくるな！？」

言っただけ遅かった！つかさに抱きつかれて勢いに耐えきれず床に頭を打った。痛っー！？でも、何か柔らかい感触が俺の顔に・・・  
どこのギャルゲーだよ！？

「っ、つかさ！大丈夫だから、どいてくれ！」

「優希くん・・・君はこのギャルゲーの主人公かな？まあ、悪いのは私だけど・・・」

こなた！？何でこのタイミングで！？

さっきのスケキヨの背が小さかった気が・・・あれ、こなたかよ！？

ともかくこの状態はまずい・・・！説明するしか・・・

「つかさ！？大丈夫・・・夫・・・」

「か、かがみつ？いや、これについてはだな・・・（大汗）」

「・・・こんな真夜中にしかも人気がない通路でつかさの胸に顔を埋めて・・・ね。優希くん・・・もう覚悟はできてるわよね？」

「た、助けて！？こなた！？ゆいさん！？つて、何で二人まで俺を見る目に感情がこもってないの！？」

「お姉さん・・・逮捕しちゃうゾ」

「かがみ！手加減無しだよ！」

「理不尽だあああああああ！？」

・・・・・・・・・・・・・・・・

あれ・・・ここは・・・どこだ・・・？

何で海何かに居るんだ俺？確か・・・かがみとこなたとゆいさんに殺られて・・・それから、どうなったんだ？

はっ！？まさか、死んだ世界！？天使ちゃんマジ天使！？

・・・・・・最近、頭ヤバイかも・・・俺

ん？あんなところに子供がいる・・・しかも一人で危なくないか？



って、こけた！？ちょっと溺れてるしヤバイかも！？

「おい！？大丈夫か！？」

いきなりのことでビックリしたらしく、なかなか起き上がれないらしい。

なんとか起き上がった子供は少し落ち着いたのか俺のほうを見た・  
・は！？

「な！？小さい頃の俺！？」

その子の顔が小さい頃の俺だった！？どういうことだよ！？

俺が手を離れたすきに小さい俺は何処かに行こうと走っていった・  
・って、見てる場合じゃねえだろ！？

「おい！ちょっと待ってくれ！」

相手は子供なのに全然追い付けない。むしろ、どんどん離されていく・  
・

離れて行くなびに周りの景色もどんどん白くなっていく・  
・

「待ってくれよ！？・  
・俺を一人にしないでくれ！？」

ここで俺の意識は消失した・  
・

・・・・・・・・・・

「・・・優・・・希・・・ん」

誰かが呼んでる・・・寝てる場合じゃない！？

「わ！？びっくりした～やりすぎてもう起きないかと思ったよ～」

「へ？俺は何処に行ってたんだ？」

「？何言ってるの？もうしないからはやく起きなさいよね」

「ほら、水野先輩。行きますよ～？」

「あ、ああ。じゃあ、行くか！」

何だったんだ？あの夢は・・・いや、夢じゃない何かは・・・

俺の記憶・・・？小さい頃にどこかの海に行ったことがあるのか？

どうなってるんだ？いつたい、何が起こるんだ？

## 第25話

夏だ！海だ！につ

（後書き）

優希「つかさの胸の感触・・・」

みんな・・・殺っちゃて・・・！

異端審問会「「イエーサー！！！」」

優希「あれ！？何でいきなり縛られてんの、俺！？しかも、この臭いガソリンじゃね！？って、火だけは付けちゃいけないから！？止めてえー！？」

しばらくお待ちください（＝　＝　）

優希の過去？つばい話がでてきたね

優希「あれは何だったんだ？」

復活早っ！？まあ、いつか分かる日がくるよ

次回も続くゝ海！本当ゴメンなさい！

では、また次回で！

異端審問会「「水野に関する妬みなどは異端審問会まで！！！」」

優希「何宣伝してんだ！？お前ら！？」

## 第26話

夏だ！海だ！さんっ

（前書き）

夏休み・・・終わっちゃったね（涙）

では、本編をどうぞ（ダッー！

スタッフ「ちょ！？どこ行くんですか！？」

優希「その前に誰だ！？お前！？」

第26話 夏だ！海だ！さんっ

さっきのあれは何だったんだ？

・・・やっぱり俺の小さい頃の記憶・・・？  
でも俺、海行ったこと無いんだけどな

あれ・・・・・・？

よく考えたら・・・

俺、記憶無いから分からないのは当たり前じゃね？

・・・・・・

あはははははは！！

そりゃ、アニメみたいに記憶がどんどん戻るワケないよな！

よし、そうと分かれば・・・

「遊ぶぞー！！」

優希はバカじゃありません。アホです！！

「こんなにいい天気だったら、日下部達もくればよかったのに」

「そうだよな、ま、あやのとみさおの分まで楽しもうぜ？」

「よし、優希くん！ビーチバレーで勝負でもしない？」

えっと、こなたさん・・・？

明らかにそれは死亡グラフだろ・・・！

しかも、絶対解ってやってるだろ！？俺、次は死ぬぞ！？

「いや、ここはスイカ割りだぁ！（何でこれにしたんだ！？俺！？」

「すいちゃん、スイカは持ってきてないよ？」

「なら、俺が買ってくる！何かほかにもいるものあるか？」

「特にないですよ？ほかの皆さんもないようですし、大丈夫ですよ」

「んじゃ、行ってくるよ。みんなをよろしくな、みゆき」

「はい、わかりました」

んじゃ、とりあえずスイカをつと・・・

何か、人だかりができてるぞ・・・って、スイカ売ってんの！？

なら、早くかわなくちゃいけないじゃないか！

・・・・・・・・・・

「ふー、つかれたー」

「さすがにちよつとはしゃぎすぎたかもね」

「・・・ゆたか、大丈夫・・・？」

「うん。ありがとうね、みなみちゃん」

「ゆきちゃん、カニってあんまりいないね」

「えっと、多分あちらのほうにいるんじゃないでしょうか？」

いいな～みんな遊んでて～

「あ、優希くんだ。おかえり～・・・って、あれ？スイカは？」

「ゴメンなさい。俺の目の前で売り切れになりました」

「な、何かそうとう疲れたみたいだね～お疲れさん！」

「あいつ何なんだよ～スイカ三つも買って何するんだよ！」

「あはは、それで今から何するの？お姉ちゃん？」

「うーん、とりあえず泳ごうよ。じゃあ、ゆーちゃんみなみちゃん行こー」

「え？あつ、うん！みなみちゃんも行こう？」

「・・・うん・・・」

三人は元気だなくでも、大丈夫か？三人だけで・・・  
は！？あの三人なら（特定の趣味のやつ以外）大丈夫だ！  
女子にあるべき物が無いから！

あ、みなみちゃんが落ちこんでる。聞こえた？

「ん？優希くん、どうしたの？」

「え！？いや、何でも無い何でも無い・・・」

こっちのメンバーは・・・男でよかった！  
ツンデレ、メガネ、ドジっ子ってよりどりみどりじゃない  
か！？

あっちの胸ぺったんガールズとは違うぜ！

「てめえら！？何しやがる！？俺のスイカー！？」

「わわわ、ゴメンゴメン！というか、何で砂の中にスイカがあるの  
！？」

・・・は？

今のこなたか！？へんなやつに追っかけられてたの！？  
って、そんな場合じゃないな！？助けないと！？



「すいちゃん！？今のこなちゃん達だよね！？何で追いかけられるの！？」

「知らねえよ！？とりあえず追いかけるから、待っててくれよ！？黒井先生、ゆいさん！みんなを見てて下さいね！」

走ってる時、黒井先生が『やっとウチらの出番がきたんやな！？』・・・。ただけ出番が欲しかったんだよ！？

「おい！？俺の友達に何やってんだよ！？つて、あゝ！？お前さっきのスイカ三つも買ったやつ！？」

「あゝ！？俺の後ろでスイカ買えなかったやつだ！？」

「お前のせいだろ！？このヤロー！」

「いてえ！？ふざけんな・・・よ！」

「へ・・・？」

何か次の瞬間、海に投げられてた・・・

・・・

ちよ！？俺泳げないのに！？

こなたに助けてもらった・・・

海なんて・・・！嫌いだー！



## 第26話

夏だ！海だ！さんっ

（後書き）

正直体力の限界が・・・！

中途半端に終わります！短くてすいません！

では、また次回で！

## 第27話 白石のなく頃に（前書き）

最初に言っておきます！

私の作品に白石が多くでてくるのは気のせいです！（笑）  
今回の話はそんな白石の冒険です！

見たくない人はすぐに戻ろう！（笑）

優希「ひどいなオイ！？あゝでもあいつが主人公の話かあゝ無くて  
もいいや」

ふっふっふっ、お主も悪よのゝ

黒優希「お代官さまほどじゃありませんぜ（笑）」

では、本編をどうぞ！

白石「俺の話だろ！？・・・みんな！これを待ってたんだろ！！今  
から始まるよー！」

## 第27話 白石のなく頃に

W A W A W A 忘れ物 W A W A W A 忘れ物 . . .

え？俺が誰かって？みんなのアイドル白石稔です！

俺は今、水野から女子を守る為に日々戦っているんだ！！

決して水野が羨ましいとか、妬ましいとかの感情じゃないぞ？

~~~~~

ん？電話か？誰だろう？

「はい、もしもし？M F Sですけど？」

あ、ちなみにM F Sの略は”水野をフルボッコにしたい” . . .  
まあ、みんな一緒だよな？

『もしもし〜いず . . . あ、間違えた。 . . . ごほん . . . コードネームKとも呼んでくれたまへ』

「は、はあ〜（汗）んで、Kさん？どんなご用事で？」

『優希 . . . 違うー！？水野は柊つかささんの胸に顔をうずめたらしい . . . ！』

「・・・ぶちクロス・・・!!」

『では、よろしく〜あと面白いのがあるよ・・・』

・・・・・・・・・・

さて、ナイフと毒は持ったな・・・

よし、行くか？マツテロヨミズノ・・・!!

~~~~~

また、電話かよ！？早く行きたいのに！？

「はい！？もしもし！？誰だよ！？今、忙しいんだよ！？」

『あゝん？白石の分際で何生意気言ってるんだよ！？あたしに逆らう気？』

「あ、あきら様！？いえ、滅相もございません！？何でございませようっ？」

『後で収録あるから早くきなさいよ！！ったく・・・』

・・・・・・・・・・

ふ　　ざ　　け　　る　　な！！！！あのちびっ子が！！

俺を誰だと思ってるんだよ！？

許さん・・・！！この恨み・・・受けてみる！！

みんなに連絡しないとな・・・

あ、今これるか？無理？頼む、俺の代わりに水野を・・・！

え？俺は行かないのかつて？

だって行きたいよ！でもな、どうしても外せない仕事があるんだ  
よ！

だから頼む！！あとは、任せた！  
・・・

優希 side

「は・・・は・・・はくしょん！」

や、ヤバイ・・・風ひいたか？

さっきからクシャミがとまらねえ

誰か噂してんのか・・・ないな！？あつたら・・・まずいことに

なりそうだ・・・！

あれ？何か後ろからいっぱい足音が・・・

逃げろー！！くるなああああああ！！？

こうして主人公の命は助かったのであった・・・（助かったのか？



第27話 白石のなく頃に（後書き）

白石崩壊中（笑）

キャラがもはや原型を残してない？

だが、そんなの気にしないのが私流！！（キラッ

では、また次回で！

特別編

9月12日といえば・・・（前書き）

さあ、今回は誰でしょう？

ヒントは優しい王子様ですよ（ほぼ答えだー！？

では、どうぞー！

特別編

9月12日といえば・・・

夏休みは終わり、三年生は受験に向けて本格的に集中し始める時・・・

俺は、悩んでいた・・・

どうして・・・どうすれば・・・!

「さて、みんな!集まったか!？」

「「「「「YES!!LET'SPARTYTIME!!」」」」」

この場所から逃げられるのか・・・!!

「何だよお前ら!？俺は何もしてないだろ!？」

「夏休み中にほんゝつとうに何もなかったのか？」

夏休み中・・・?何も・・・なかつ・・・た・・・?

いやいやっ!あれは、事故だろ!？セーフセーフ

「な、何かあるわけないだろ(汗)」

「柵の胸に顔を埋めておいてか!？」

「ぐはっああああ！？ば、馬鹿な！？何故貴様がそれを！？」

あの日のことをこいつが知ってるワケ無いのに！？

は！？まさか・・・あの時・・・

あの日見たこなたのニヤ顔を俺は忘れない・・・

「さらばだっ！-！」

「逃がすかつ！-！やれえー！」

「ぎゃあああああああああああ！-！？」

・・・・・・・・・・・・・・・・

「優希くんおっつ！」

「こなた、言っただのお前だろ・・・！」

「やだな、言うワケないじゃん。ところで、今日はみゆきさん家に行くの覚えてる？」

ポカーン（。°。°）

「完全に忘れてたわね」

「お、何時の間にか来てもとから居たかのように話すがみんだ」

「長いな、オイ？あと、かがみんって言うなっていつつも言ってるわよね！？殴るわよ！？」

「デフォだけど、殴る前に言ってよー！殴られるこっちは痛いんだよ！？」

「こっこのの・・・なごむなあ」

子供達を見てるお母さんみたいな

「って、そろそろ行く時間じゃなかったか？」

「ああっ！？ヤバイ！優希くん、かがみ！行くよー！」

「な、ちょー！？待ちなさいよ！？こなた！？」

・・・・・・・・・・・・・・・・

「あれ？こなた、あそこにいるのってゆたかちゃん達じゃない？」

「あ、本当だ。おーい、ゆーちゃん！」

「あー！お姉ちゃん！」

「先輩がた、お久しぶりっス！」

「おおー！こなたにかがみに・・・フラグブレイカーユウキですね

「!?」

「何だよ、それ!? いつ俺がフラグ作ったんだよ!? 回収してくる!」

「何、バカなことやってんのよ? ゆたかちゃん達はもう準備できたの?」

「私たちはもう準備できましたよ?」

何なんだ? さっきから準備がどうか・・・?

「じゃあ、行きましょうか?」

「なあ、今からどこに行くんだよ?」

「いいから早く行くつスよ、優希先輩!」

な、ちょ!? わかったから、押すなつて  
本当に何するんだよ? こっちは全然知らないんだぞ?

・・・・・・・・・・

みなみ side

・・・今日は、私の誕生日・・・

・・・だけど、みんな・・・忘れてるのかな・・・

「みなみちゃん、このアクセサリー何かどうですか？」

「あ……いいと思うんですけど……私に似合いますか……？」

……今は、みゆきさんと一緒に買い物に……

……何を買うのかな？……って、思ってたら私の誕生日プレゼントを選んでくれた……

「みなみちゃんは、どれを付けてても可愛いので悩んでしまいますね」

「……そ、そんなこと……無いですよ……／＼じゃあ……これにしますね……？」

……私たちは、アクセサリーを買って……家に帰ることに……

……家に付くと……何か家の中が騒がしい……？

……ドアを開けてみると……

「「「「「お誕生日おめでとう！……！」「「「「「

……みんなが……私を待っていていた……！

「……ゆたか……これって……？」

「えへへ、ゴメンね？さぶらいずのほうが驚くかな……って、

みなみちゃん！？ゴメンね！」

「・・・ゆたか・・・？どうして・・・謝るの・・・？」

「だって、みなみちゃん・・・泣いてるもん！？」

「・・・え？」

本当だ・・・やっぱり・・・寂しかったんだ・・・

「ゴメンね！みなみちゃん！」

「・・・ゆたか、みんな・・・ありがとう・・・」

「さあ、じゃあみなみちゃん！こっちに来て！」

・・・泉先輩に引つ張られながらリビングに入ると・・・

・・・リビングにも、料理やジュースがあつた・・・

・・・中央には・・・大きな箱・・・？

「開けてみて？みなみちゃん」

・・・開けてみると・・・

「呼ばれて飛び出てジャジャジャーン！！」

・・・中から、水野先輩がでてきた・・・



「え？何この空気！？というか、みんなは知ってただろ！？や、やめろ！そんな可哀想な物を見る目で、俺を見るなあ！」

「・・・水野先輩も・・・ありがとうございます・・・」

「あー・・・今回の俺のプレゼントは俺のことを今度から、名前で呼んでくれ」

「えゝ、それって優希くんが美味しいだけじゃんゝ」

「お前達がそうしろって言ったんだろ！？あと、ゆたかちゃんも俺のこと名前で呼んでくれよ」

「はい！優希先輩！」

・・・ふふ・・・顔が真っ赤ですよ・・・

・・・そういう一面もあるんですね・・・？

「・・・ありがとうございます・・・優希先輩・・・」

特別編

9月12日といえば・・・（後書き）

ふ、ふふ、はっはっは！

ついに、やりきったぞ！久しぶりに書けた！

優希「何がだよ？」

何か久しぶりに長いと思えるのが書けたんだよ！  
よし、がんばった！

優希「最近、あやの達でてないよな？」

・・・・・・では、また次回で！

優希「あ！？オイ、逃げるな！逃げる時だけ早いなオイ！」

第28話      それぞれの朝（前書き）

それぞれの朝を書いてみます！

では、本編をどーぞ！

## 第28話      それぞれの朝

かがみ side

ふあゝ、朝かゝ今日は、何するんだっただけ・・・？  
確か、こなた達と何処か行くんだっけ？

まだ時間はあるし、勉強でもしとこうかな？

「かがみゝ！境内の掃除手伝ってくれるって言ったじゃない！」

「ああ、ゴメン。いのり姉さん、今行くー！」

そういえば、言っちゃったんだっけ？  
じゃあ、早いとこ終わらせないとね。

・・・・・・・・・・・・・・・・

やっと終わったゝ！

まだ、9時だし・・・ちよつとくらい宿題しなきゃね。  
昨日のプリントはどこにやったかな？

・・・・・・・・・・・・・・・・

ふーん、この方程式はこうすればよかったんだ？

それにしてもつかさ？まだ、起きないの？もう、10時になるわよ？

「かがみ？悪いけど、そろそろつかさ起こしてくれない？朝ご飯片づけられないから」

「はい」

じゃあ、起こしに行こうかな？

「つかさ？起きないと、朝ご飯片づけちゃうわよ？」

「・・・うん、まだ朝じゃないよ」

「ほらほら、早くいきなさい」

あの子っいたらいつになったら1人で早く起きられるのかしら？

でも、それがあの子のいいところなのかもね？

・・・

こなたside

あ、もう朝か？最近何か時間が早く過ぎてる気がするよ

優希くんからメールだ？

なにに、『今ボス戦help me!？』・・・ふ、甘  
いよ優希くん！

助けてほしかったらアイテムを渡すんだね！

返信つと・・・

返信早っ！？今、戦ってんじやなかったの！？

ん？『助けて下さい！こなた様！』・・・優希くん・・・  
君にプライドって言葉は無いの？

まあ、がんばって！

返信つと・・・

返すの早いけど・・・本当に戦ってるの？

今度は・・・『オワタ＼（＾o＾）／』お疲れ

って、何でもうこんな時間なの！？

さっさと倒さないと！？時間無くなっちゃう！？

・・・・・・・・・・・・・・・・

優希side

ぬああああああああああ！？

何でもう一体出てくるんだよ！？さっき倒したばかりな

のに！？

こ、こなた！？助けてー！？

送信つと・・・

くそー！？一人で戦うか！？おりやあああああああああ！

あ、メール返ってきた。なにに『アイテムを渡すんだね

！』俺が欲しいよ！？

お願いします！助けて下さい！こなた様！

返信つと・・・

やっと返ってきた・・・！

あああああああああ！？死んだー！？やっぱりメ

ールうちながらやるんじゃない？

もうゴールしたよ・・・返信つと・・・

助けてくれてもいいじゃん！？

「不幸だあああああああ！！？」

あれ？これって不幸なの？

待て！今日何かまだやることあったはずだ！？何だっけ・・・

・？

## 第28話

## それぞれの朝（後書き）

今回は、かがみとこなたと優希の朝を書いてみました！

短いのは・・・気のせいです！？

誰か〴〵助けて〴〵では、また次回で！



## 第29話

### これから進む道

「で、言うことがあるなら聞いてやるで？水野？」

「あ、あの！？ここどこですか？何でわたし、連れてこられたんですか！？」

「黙っとけ」

俺のギャグが！？でも、何で本当に進路指導室なんかに・・・？

「お前な、自分で頼んだこと忘れるなや・・・ほれ」

「おおー！これのことですか！どーもどーも！」

俺が黒井先生に頼んだのは次の俺が行くべき資料を探してください！って頼んだんだよな・・・アイテムを犠牲に（涙）

「でも、いいんか？水野？」

「何がです？俺は、やっぱり行きたいんです！」

「そつやなくてな・・・泉達のことや。あんなに中いいのに一緒の大学に行かんでいいんか？」

「・・・俺も出来ればみんなと一緒に行きたいですよ。でも・・・みんなと過ごすうちに・・・気づいちゃったんですよね」

「何にや？」

「俺が今こうやって過ごしたみたいに、昔の俺もこんな風に過ごしてたのか？誰かを大切にしてきたのか？って・・・」

「・・・お前が何を背負って生きてきてるのは、しつとる・・・けどな？お前が生きとるのは、今なんや。多分、泉達もこう言っとるはずで？」

「・・・確かに聞きました。・・・でもやっぱり・・・」

「お前の人生は誰かが決めるもんやない。水野、お前がしつかり悩んで決めるもんなんや！だからな、今はしつかり悩め！」

「・・・はい」

・・・・・・・・・・

はあー・・・どうすつかな？

こなた達を選ぶか・・・昔の記憶を選ぶか・・・

こなた達を選ぶなら、今からこなた達が行く予定の大学について調べて俺でも行けるか確かめないといいけないし・・・

昔の記憶を選ぶなら、俺は今からでも・・・記憶を探しに行かなくちゃいけない。

どんなとこにいても、父さん母さんを探さないと・・・

君なら、どちらを選ぶ!!

誰に聞いてんだ?俺は・・・

そついや、いきなり学校に呼ばれたついでに買い物しようとしたんだっけ?

今日は何にしよう?ん・・・?

前から、何か可愛い子が歩いてきてる・・・俺もアニメみたいに声をかけられたいもんだ。

「・・・優希?」

「へ?」

「やっぱり優希だ!?何でここにいるの!?まだ、私と会うには早いはずだよ!?!ああゝ!どうしよう会っちゃったよ!大丈夫かなゝ!?!?」

「えつとゝ?何言ってるんだ・・・?そして、何で俺の名前を知ってるんだ?」

「私のこと、覚えてない・・・?・・・まあ、おかげで助かったし・・・いつか?それじゃあ、またね!」

そう言っつてその子は早くこの場から逃げるみたいに・・・つて、逃げてるし!?

「一体、お前は誰なんだー!?!」

「私は、通りすがりの仮面ライダーだよー」

いや、ネタはいいから！あー・・・どっか行ってるし・・・  
一体、あの子はなんだったんだ？

## 第29話

## これから進む道（後書き）

突然現れる、新たなキャラ！

優希「あの子は誰なんだ？」

まだ、優希が知るべきじゃないよ！？死ぬ気！？

優希「誰なのか知っただけで死ぬのかよ！？」

でも、これから物語は加速する！

優希「何で加速したんだ？あまりにも急展開すぎるだろ？」

では、また次回で！

優希「無視かよ！？」

### 第30話 桜藤祭会議――！！

「では、みなさん。桜藤祭でやりたいものなどはありませんか？」

あの女の子に会ってから、早くも一週間がたった・・・

今日は、文化祭で俺達のクラスがやるものを決めるんだけど・・・  
みんなやりたいもの何か無いかな？

「はいはい、みゆきさん！私、メイド喫茶やりたい！！」

「こ、こなちゃん（汗）でも、私も・・・ちょっとやってみたいかも・・・」

あれ？二人はやりたいものがあつたのか？  
しかも、メイド喫茶って・・・

「それでしたら、郷土研究発表とメイド喫茶がでますが・・・他にやりたいものはありますか？みなさん？」

何か入ってるー！？なんだ郷土研究発表って！？  
誰が言ったんだ、そんなつまならそうなの・・・

「みなさん、郷土研究発表に異論は、ありませんよね？」

恐ええー！？みゆきが暗黒面に落ちたぐらい恐ええー！？

まさか、あれ言ったのみゆきか！？なんでそんなの提案したんだ！？

『でも、メイド喫茶だったら高良のメイド服が見られるんだよね?』

『『『『『……!?!?』』』』』

『ってことは、泉とか柊妹のメイド服も……?』

『いや、待て!確か、向こうのクラスと合同でやるんだろ、俺達のクラスは?』

『なら、柊姉とか峰岸とかもかつ!?!?』

『それだけじゃないぞ!?!?まだ、あの……誰だっけ?ヴァってよく言う人』

『あたしだけ忘れるなよ!?!?』

あ、本人来ちゃったよ。というか、なんでここに?後ろにも、たくさん……

「ウチのクラスとこのクラスの合同作業は決まったわよ?」

「へ?何に決まったんだ、かがみ?」

「私達のクラスは、これをやると思うんだけど……すいちゃんはどう思う?」

「……一ついいか?」

「何?すいちゃん?」

「・・・何故に、FATE?しかも、このシーンとか色々難しいと思うんだが・・・第一、分かる人いるのか?」

「FATE分かる人?手?挙げて!」

ほぼ、全員挙げてるー!?

とうとう、萌え文化はここまで来てしまったのか?

でも、FATEって萌えか?かつこいいのほぅが・・・

「って、そうじゃなかった!かがみ、あやのなんでこうなったんだ?」

「優希くんは、分かるだろうけど私も読んでいい話だなって、思ってたところに峰岸とみゆきが来てね?」

「読んでみたら、ちょっと感動しちゃって・・・これが決まった理由よ?」

はあ、読んで感動してやりたくなった・・・と?

気持ちは分からなくもないが・・・とりあえずは設定だな?

みんなが分かるんなら物語の説明はいらないが、設定は仕方ないしな?

「とりあえず・・・こいつらから、やめさせるか」

「なんだと!?巨乳にメガネにドジというコンボが揃っている高良のメイド服が見たく無いか!?」

「胸が無いのは致命的かもしれない・・・だが、貧乳はステータスだ!希少価値だ!って、という言葉があるんだぞ!?」



「ちょ！？それ、私のセリフ！？」

「みなさん、静かにしてください！郷土研究発表についての説明をしますから！？」

「静かにしろー！？」

「なんなのこのカオス」

本当に、大丈夫がこの桜藤祭？今からでも心配なんだが・・・

もう・・・10月か・・・

第30話 桜藤祭会議――！（後書き）

この頃は、寒くて指があんまり動かない私です！

もう、冬か！？って、ツツコミたいですね？

文化祭の話合いだけで、終わらせてゴメンなさい！

若干、スランプなんだよー！（涙）

では、また次回で！

第31話 桜藤祭準備――！！昼編

結局、みゆきやほかのみんなを止めるのに時間を使って放課後にFATEの台本作りをやることになった・・・（涙）

「みんながあそこまでメイド喫茶について争うなんてな・・・」

「それだけみゆきさんの人気が高かったんだよ」

「そ、そんなことないですよ。泉さんやつかささんも人気が高かったですし・・・」

「わ、私！？そんな事ないよ？ね、お姉ちゃん？お姉ちゃん？」

「・・・え？ああ、そうね」

「？かがみ、何で元気ないんだ？」

さつきから話にもあんまり参加してないし・・・気分でも悪いのか？

「へ？い、いや、なんでもないわよ！」

「そうなのか？なら、いいけど・・・」

「でも、かがみ本当に元気なさそうだよ？」

「そんな事ないわよ。じゃあ、そろそろ帰るわ」

「て、おい！かがみ！？・・・行っちゃったぞ」

何か今日あったのか？

「あのー、お姉ちゃんいます？」

ん？この声は・・・

「ゆたかちゃんにみなみちゃん？どうしたの？」

「あ、優希先輩！ちよつとインターネットの繋げ方がわからなくなちゃってお姉ちゃんに聞こうかと思って・・・」

「あー、ゆーちゃんゴメン！今ちよつとキツインだよね」

「あうー、じゃあ仕方ないよね？みなみちゃん、どうしよう？」

「・・・誰かほかの人を探しに行こう」

「ゆーちゃん、優希くんなら行けるよ？」

へ？俺まだここでやることあるんだぞ！？  
脚本作ったり・・・BGM決めたり・・・

「でしたら、優希さんはみなみちゃん達のほうをお願いしますね？」

「ありがとうございます！優希先輩！（キラキラ）」

「・・・ありがとうございます」

め、目があー！？眩しすぎる！？

仕方ない、やってくるか！

「じゃあ、悪いが任せたぞ？行こうか、二人とも？」

俺が居なくて本当に大丈夫なのか？

やっぱり、居たほうが・・・

『では、泉さん決めましょうか・・・？どちらがセイバー役をやるか・・・』

『みゆきさんじゃ、ダメだよ！みゆきさんには魔王なの！はさんって役があるんだから』

『いえ、泉さんでは身長が足りないのでしょうし私がやりますよ』

『ぐぬぬぬ・・・！！！！』

巻きこまれる前に早く行こう！？  
面倒そうだもん！？逃げるが勝ち！

第31話 桜藤祭準備――！！昼編（後書き）

こんかいはい、また何個かに分かれたりしちゃうんです！？

もう、ネタがでてこない・・・

早い・・・早すぎる・・・！

次回いけるのか！？

では、また次回で！

第32話  
桜藤祭準備――！放課後編（前書き）

みなさん、聞きました！？

この作者まだ、引き伸ばす気ですよー！？

本当、信じられませんよね！？

[illegible]

・  
・  
・  
・  
涙がでちゃう（涙）

では、本編をどうぞ！！

### 第32話 桜藤祭準備――！放課後編

こなたとみゆきの喧嘩から逃げて来て、今は一年生の教室に来たんだが……

「何なんだ？このパソコンだらけの教室は？」

どこをどう見てもパソコン、パソコン、パソコン……何やるんだ？

「インターネット喫茶ですよ、優希先輩」

「……でも、パソコンがインターネットに繋がなくて」

「困ってた……と、ひよりとかパティはいないのか？分かるだろ？」

「二人とも何処かに行っちゃって……それに残ってるみんなもパソコンにあんまり詳しくなくて……」

「……優希先輩、お願いします」

「そんなに頼まなくても、俺はその為に来たんだぞ？帰れ！って、頼まれても帰らないからな！」

「……じゃあ、お願いします」

さて、どこから調べるかな……？とりあえずケーブルは？……繋いであるか



なら、次は設定を．．．ん？おかしいところは無い？こっちは．．

「優希先輩、分かりました？」

「うゝん、おかしいところはどこも無いんだよねゝ配線よし、設定よし．．．設定？．．．あ！？」

「．．．先輩？どうかしたんですか？」

「このパソコンって、どうやって集めた！？」

「みんなの家から集めてきたんですけど．．．どうしたんですか？」

「このパソコン全部その家あの家って別々の設定になってるんだよ！だから、これを学校のポイントに．．よし、できた！」

やっぱりかゝ、何か色んなパソコンがあると思ったんだよねゝ！

残りの設定も全部変えないとな？

．．．．．

んゝ、疲れたゝ！さすがに全部の設定をいじったり変えたりはキツイな。ま、ゆたかちゃんとみなみちゃんが喜んでたし．．．いつか。

早く戻って、みんなの手伝いしなくちゃな。

「・・・・・・・・！？・・・っ・・・・・・・・！」

何だ？何処からだ！？今の叫び声みたいなの！？たぶん、ここからだよね！？

空き教室からか？一体何が・・・

「ヒヨリがいけないんデスよ！？ナンであんなキョーハクメールなんかだしたんデスか！？」

「パティだつてだそうって言うてたじゃん！？そりゃ、私だつて白の騎士団とか痛いネーミングだしちゃったけど・・・」

「ワタシもドウザイです・・・・・・・・ヒヨリ、s o r r y！アオつてごめんなさいデース！」

「どうして、こうなつた！？」

あの二人は準備をサボって何やってんだか・・・困ってるのは分かるんだが、スルーしないとダメな気がする。脅迫メールだぜ？嫌な予感しかしねえよ！

・・・・・・・・・・・・・・・・

教室に戻してみると、何かこなた達がほかのみんなから離れて真剣

な顔で話をした・・・何だろ？

「何かあったのか？みんな真剣に話して・・・」

「優希さん、さっき黒井先生に聞いた話なんですけど・・・この学校に脅迫メールが届いたそうなんですよ」

脅迫メールかぁ、今日はよく脅迫メールって言葉を聞くな

「しかも、見てよ？名前が白の騎士団だって爆弾とかで全部白にするかただの痛いネタか微妙なんだよね」優希くんはどう思う？」

・・・確かに痛い内容だな。さて、どうするおれ！？犯人の正体を言うか、あいつらの為に秘密にしようか・・・これしかないよな？

「ああ、それひより達が書いてたやつだな？まだ、向こうの教室に居たと思うぞ？」

おれがあいつらにされた事に比べたら、こんな些細なイタズラだろ

「お前ら・・・何やつとるんやー！！」

「ひよえー！？どうしてここが！？」

「お前ら・・・覚悟はできとんやろうな・・・？」

「ヒヨリ・・・ゼツタイにワスレませんヨー！！」

「待つて！？パティ、置いてかないでー！？」

「お前ら待たんかー！！」

「「ひよえー！？情けをー！？」」

うん・・・分かった、こうなるって・・・

だから、あえて言わせてもらっ・・・

・・・アーメン・・・（涙）

第32話 桜藤祭準備――！放課後編（後書き）

優希「彼方さん？言うことは？」

オンドウルウラギッタンディスカー――！

優希「か、彼方さん……！言うことは……？」

僕と契約して魔法少女になつてよ

優希「だぁー！？大事なことを言えよ！？これで、ラストな！？よし、スタート！」

ノモブヨ オシ ハシタワ ドケダ グンミーチャ デ  
リブラ！

優希・私「遅れてすいませんでした――！！」

優希「次回は、早く出させるんで！本当、すいませんでした！」

特別編 10月25日といえは・・・(前書き)

今回は、特別編！

だが、本編と繋がってないのでよろしく！

では、どぞ！

特別編 10月25日といえば・・・

「あゝ皆のしゅっ、今日はみゆきさんの誕生日だあゝ！せーの・・・

」

「「「「「誕生日おめでとう！ー！みゆき（さん）！ー！」「「「「「

」

「今まで皆さんの誕生日をお祝いさせてもらいましたが、自分の番になると・・・恥ずかしいといえますか・・・うれしいといえますか・・・」

「まあ、そういうもんじゃ無いか？」

今日は、みゆきの誕生日だ。いつつも勉強とかマメ知識を教えて貰ってるし、何かたまにはお返ししなくちゃな・・・

「みゆき、今回のプレゼントは・・・」

「ゆきちゃん、クッキー出来たよ！食べてみて？」

お、俺のセリフが！？

つかさは天然だよな・・・？知ってて言ってるんじゃないよな・・・？そんなヒドイことしないよな・・・？

「なあ、かがみ泣いていい？」

「あんたは何やってんだ？変なことしないで早くみゆきにプレゼン

ト渡してきなさいよ?」

華麗にスルーされたあげく、本来の目的を思い出させてくれた!?  
なんてツンデレ!

「・・・何か変なこと言わなかった?」

「そ、そんなわけ無いだろ?えっと、プレゼントは・・・あれ?」

「?優希くん、どうしたの?」

「嘘だろ・・・?プレゼントがどっかいつちゃったZE」

ガンツ（殴られた音

「アホかあんたは!?プレゼントさっきまで持ってたんじゃないかった!?!」

・ 確かにさっきまで持ってたんだけど・・・殴られて頭から記憶が・

「わたしのせいだよ!?ほら、さっさと探すわよ!?わたしはこつちを探すから、あんたはあつちのほうを探しなさいよね!?!」

何処にやったかな?つかさに出番取られた後に、かがみに話にいつて・・・あ!?!

「何?あつたの?」

やつと思ひ出したぜ・・・そう俺は、あそこに置いたんだ!だが、



もう大丈夫だ・・・そう・・・

「プレゼントは・・・あそこだー!!」

「・・・は！？あんなバカ!？」

そうその場所とは・・・!

みゆきのすぐ後ろの机だー!

「心配して損した・・・早くみゆきに渡してきなさいよ・・・」

かがみから言われても今はスルーだ!

先にみゆきに・・・

「みゆき、俺からのプレゼントだ」

「優希さん、どうもありがとうございます。開けてみてもいいでしょうか?」

もちろんだとも。ささ、早く開けてみてくれ

中から出てくるのは、あれだ!

「えっと・・・ハートのアクセサリ?ですか?私にこういうものは可愛いすぎるのでは・・・」

「そんな事ねえよ?みゆきは可愛いから何でも合うと思うんだが・・・」

「そうですね・・・ありがとうございますね、優希さん」

「へえー、みゆきさんは可愛いから何でも合うんだー羨ましいなー。ねー、かがみ？」

「そうねーでも、優希くんはやっぱ罰が合うと思うんだー」

「え！？ちよ、二人とも！？俺は悪いこと何か言っていないだろ！？だから、やめ・・・ぎゃああああ」

結局、死にオチかー！

今回のプレゼントの意味は誰にでも愛情が捧げれる、まさにみゆきにぴったりのキーホルダーなわけだ・・・え？なんでキーホルダーかだって？

同じのを選んだらまずい気がするから毎回変えてんだよ！？

おや、そろそろお迎えがきたみたいだ・・・

特別編 10月25日といえば・・・（後書き）

正直言うと・・・今日がみゆきさんの誕生日ってこと・・・忘れてたよ（てへ

いやゝ、帰ってそういえばいつがみゆきさんの誕生日だったって、確かめたら・・・まさかの今日だったと！

焦ったね、さすがに焦ったねあれは。

・・・分かってる、言わなくちゃいけないことがあるってことは・・・

みゆきさん、すいませんでしたー！？

では、また次回で！

### 第33話 桜藤祭準備――！夜中の学校には……！？

ひよりとパティのメール騒動が終わって、俺達は劇の為に準備に戻ったんだが……

「なんで何も終わらないんだー！？役者も決まった、準備も大体……って、全然じゃねえか！？小道具もまだだし……無理だー！？」

「優希くん、諦めたらそこで試合終了だよ？」

いやもう安西先生はいいから！？……とりあえず、今の状況だけでも確認しとこう。

「役者は、もう大丈夫なんだよな？」

「優希ーそれなんだけどよ、あたしの出番まだでさー何すりゃいい？」

は？いやさっき役者は決まったみたいなこと言って無かったか！？

「なんでお前の出番が無いんだ？みさお？」

「あのね、すいちゃん。それは、私のせいなの」

「え？何であやののせいなんだ？」

あやのとみゆきはしつかり……。あのばか多い脚本書いてくれただろ？

まあ、さすがにあの量が多いから減らしてくれとは言ったが・・・

まさか・・・！まだあの脚本完成して無いのか！？あやの・・・頼む！嘘でも・・・よくねえや。出来てると言ってくれ！

「実は、まだ出来てないの。量は、大分減ったと思うんだけど・・・新しいキャラを増やすか、話を伸ばすか悩んで・・・」

はあ、やっぱりか・・・って、新しいキャラ？何だそれ？誰を出すつもりなんだ？

「私のだそうと思ったのは・・・ジャツジャンー！」

・・・・・・・・・・・・・・・・

なのはの方のフェイトかよ！？んなの、フェイト繋がりだけじゃねえか！？確かに魔法はあるけど、それだけで出せるわけないだろ！？あと、可愛いぞこんチクショー！！

「あれ、フェイトちゃんはダメだったの？てつきり、フェイトちゃんが主役の劇になると思ったのに・・・」

まさかの根本から違うのかよ！？もうダメだ・・・！いや！まだ！まだ、希望はある！

「こなた！あやののサポートを頼む！なのはじゃなくてf a t eになるように！」

「あ、うん！峰岸さんよろしく」

「こちらこそ、お願いね。泉ちゃん」

ツツコミでここまで疲れるとは・・・さあ、次は・・・

「あやのー、チビツ子ー、手伝ってやろうかー？今世紀最大の名作になること間違い無しだぜ？」

「あんたが関わると名作じゃなくて迷作になるでしょうが」

おおーさすがツツコミの神、かがみ様。なかなかヒドイツツコミをしやがる。それに対して、みさおの反応は・・・

「うう、あやのー！？柊が氷のように冷たいよー」

何か、かがみが死んだみたいに聞こえるな。さて、じゃあ次は小道具か。担当のつかさは何処へ・・・お、いたいた。

「おーい、つかさ！ちよつと来てくれ！」

「ごめん、すいちゃん！ちよつと今手が離せないのー！」

あ、そういえばその通りか。俺が言ったほうがいいに決まってたな。

「で、つかさ！小道具の完成度はどうなんだ？」

「もうちよつと手伝ってくれる人がいたら、早く終わりそうなんだけど・・・」

うーん、手伝ってやりたいんだが・・・俺もやることあるしな・・・

・

「悪いが・・・つかさ。後で、絶対手伝うから今はみんなとやって  
てくれないか？」

「あう、絶対だよ？それまで頑張るから」

今夜は、徹夜になるかも知れないな・・・しゃあないか。  
よし、気合入れてやるぞー！

・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・は！？やべえ・・・もしかして、俺寝てた！？

教室の中には、誰も居ないな・・・今何時だ？

オイオイ、冗談だろ！もう10時かよ！？今日中に終わらせたかつ  
たのにな

あ、でもまだ体育館の電気はついてるのか。え？まだ誰か俺以外に  
も居たのか？1人じゃ寂しいし、俺も行こうかな？

そう言いながら、教室から鞆を持って教室からでた。

「夜中の学校を1人で歩くのはやっぱりというか、デフォなのか？」

そんな独り言を言いつつ廊下を歩いていると、空き教室から何か聞こえる・・・って、またかよ!?

そう言ってもやはり気になるもので、こっそりドアを開けて見ると・・・ひっ! ? ゆ、幽霊! ? ヤヴァイ気づかれた! ? やられる・・・!!

目の部分が丸く光ってて、二つの蛇みたいのが顔の横でうねってる! ? あと、杖を持ってる! ?

「・・・S・・・RL・・・BREAKER」

! ? 最初のほうは聞こえなかったのに最後のブレイカーだけ何で流暢に言えるんだよ! ?

逃げるが勝ちだ! ? ということで俺は後ろも振り返らず即体育館に情けなく逃げるのであった。幽霊? 無理に決まってるだろ! ?

・・・

体育館に着いた俺は、まずみんなの姿を探して・・・居た! ? 助けしてくれ! ! 俺は、走って近づこうとしたが、何かにつまづいて手を伸ばした結果・・・誰かを押し倒した格好になってしまった・・・!

「な! ? ちょ、優希くん! ? ・・・こんな公衆の前で何やってんの



よ!?!?!? こういうのは……」

ま、まさか……! かがみを押し倒してしまうとは……! と、  
りあえずどかないとな(大汗)

「わ、悪い!? 土下座で許してくれ!？」

「べ、別にいいわよ!? ワザとじゃないんだし……事故なんだから、仕方ないじゃない!？」

おおー! 今日、かがみが優しい……! おかげで助かった……!  
!?!? って、そうじゃない!?!? みんなに言うことがあったんだ!?!?

「こなた、かがみ、つかさ、あやのにみさおも落ち着いて聞いてくれ!?!? さっき、空き教室に幽霊がいたんだ!?!?」

「「「「「………」」」」」

な、何だ? 何でみんな黙ってるんだ? 幽霊がいたんだぞ?

「「「「「ぷ、あはははは!?!?」」」」」

「はー、あははは! 優希ー、そりゃいくら何でも無いぜー」

「優希くん、そんな子供騙しにはまるのはかがみぐらいだよ」

「いや! わ、私は全然怖くないからな!？」

「あはは、すいちゃん。さすがに幽霊はないと思うわよ?」

みんなが・・・みんなが、ヒドイ・・・！

しかも、あの優しいあやのまで・・・！俺は、これから誰を信じればいいんだ！？

「そういえば、すいちゃん。ゆきちゃん知らない？さっき、校舎のほうに行ったままで帰って来ないの」

「え、みゆき？いや、見てないけど？」

「そうか、ゆきちゃん何処行っただろ？」

そっか・・・みゆきは居ないのか。みゆきにまで笑われてたら、俺は・・・

って、そうじゃない！？さっさと作業終わらせるぞ！？みんな、いいな！

「」「」「おー！！」「」「」

やっと纏まって来たな、ここまで来たんだ・・・最後までやってやろうじゃないか！

第33話 桜藤祭準備――！夜中の学校には・・・！？（後書き）

今回の話は今までの中で一番長い気がする！

そして、みなさん一つ質問いいですか？

1・桜藤祭準備――！を別ルートでですか。

2・もう準備はやらなくてもいい！！

3・優希ボロボロルート（＝．．）

よかったらこの三つの中から、一つ選んで感想なりで下さい！

待ってまゝです、では、また次回で！

### 第34話

桜藤祭準備ー！！夜中の学校には・・・！？part2（前書き）

桜藤祭準備ー！！？は今回でやっと終わりです！！

前置きはスルーで本編をどーぞ！！

第34話 桜藤祭準備――！夜中の学校には……！？part2

・・・うゝん、よく寝たゝ！えっと、昨日作業が終わって12時くらいには、みんな解散したんだよな？確か・・・

まあ、とりあえず・・・はあ！？何で学校に！？俺は家に帰っただろ！何がどうなってんだよ・・・

『そりゃ、仕方ないでしょ？』

誰だ！？そう言っただけで後ろを見ても前を見ても誰もいない・・・誰なんだよ、お前は！？

『あれ？わかんない？前に間違えて会っちゃたじゃん』

・・・あ！あのワケ分からんことばかり言ってた子か！？  
何で君がここに？というか、ここは何処なんだ！？教えてくれ！

『待つてよ！？そんなにまとめて質問されてもこっちも困るんだから！』

え、ああ、悪い！

『ここが何処かと言われたら・・・んゝ、世界と世界の狭間・・・かな？』

？意味があんまりわからないんだが・・・  
天国と地獄みたいなものか？

『大体、合ってるかな？で、何でそこに君がいるかというと・・・』  
待て待てー！つまりあれか？アニメとかでよくある展開いわゆるお約束に俺は現在進行形で直面してるってワケか！？

『そうだよ？だから、私はここに呼ばれたの。優希・・・君を導く為に』

・・・・・・何か可笑しいとは思ってたんだ。

『やっぱり、イキナリすぎた？仕方ないよねーただのオタクでアホでバカでどんくさい優希にこんな話は・・・』

ちよ、おま！？何で俺こんなに言葉の暴力受けまくってたんだ！？泣くぞー！？

『オマケにスケベだしむつつりだしダサイし、喧嘩ばかりしていつとも一人でいくし、優しいし、カッコつけてばっかで・・・』

まだ、言うのかよ！？俺が何をした！？

そうツツコンだ瞬間、その子は何か言うか言わないかみたいに、躊躇って顔を下に向けた・・・って、オイオイ！？もしかして、泣いてないか？

『どうして、どうしてこうなっちゃったのよお！あなたは、いつも私を助けてくれた・・・だから、私もあなたを助けたかった・・・なのに、どうして！？』

お、俺と君はまだ会ったばかりだろ！？

そう言った瞬間、何か俺の鼻に直撃！ぐあああー！？またしても、鼻に！？何すんだよ！

『会ったばかりなワケないじゃない！？私とあんたは・・・って、今のあんたに言ってもムダか・・・』

いてて、何だこれペンダントか？これどうすんだ？

『そのペンダント貸してあげるから持つときなさいよ！ただし、次会う時に返しなさいよ？』

何なんだよ、しっかしまた変なペンダントだよな〜どことなくソウルジェムに似てるような・・・まさか！？お前、俺を魔女にするつもりか！？

『あんたばかぁ！？今、そういうネタはいいのよ！』

ふっ、前の仕返しだ！・・・で、何の話だっけ？

『優希がこの話を理解できたかっていう話』

多分、分かったと思うぞ？

『そう、ならいいや。もう聞くことは無い？』

じゃあ、一つだけ聞かせてくれ！君の名前は？

『私の名前？名前はね・・・』

『ほしかわ星河めぐるだよ！』

星河・・・めぐる・・・

ぐっ！？何だこれ！？体が消えてる！？おい、星河！？

『もう・・・時間切れかぁ・・・それと、優希！私のことはめぐるでいいよ？』

何が時間切れか教えてくれよ！？

俺の意識が消失した。

・・・

・・・ここはどこだ？

そんな懸念も浮かぶワケなく、ここは俺の部屋だ。

本当、朝から変な夢みるし・・・疲れてるのかな？俺・・・

ふと、机をみると机の上のあるワケない物が視界に入った。

急いでベッドからでて、それを手にとっても・・・本物だ。



「何で星河の・・・めぐるのペンダントがここにあるんだ？あれは、夢じゃないのか？」

たくさんの疑問が頭に浮かんだが・・・もっとヤヴァイことに気づいた・・・！

「今、8時かよ！？こんなの絶対おかしいよ！？」

くそっ！意地でも遅刻だけはしてたまるか！？

こうして、俺の桜藤祭の一日は始まった！

### 第34話

桜藤祭準備――！夜中の学校には・・・！？part2（後書き）

ついにオリキャラ再登場！！今回のゲストは・・・こちら！！

白石「呼ばれて飛び出てじやa」ボタン！！

何だったんだ・・・私は白石は呼んでないぞ・・・！？

ふうー・・・改めてゲストさん！どーぞ！

かがみ「ヨーグルトをかき混ぜて・・・パン工場」

・・・

でさー今回の優希が貸してもらったペンダントって、何か重要そう  
だよね？

かがみ「ち、違うのよ！？これは、こなたがやれって言ったからや  
っただけなんだからね！」

大丈夫だよー私何にも見てないからさー

かがみ「ぜっくたい！秘密だからね！分かった！」

はいはい、ではまた次回で！

### 第35話

### 桜藤祭！

かがみ side

今日は桜藤祭！みんなであれだけががんばったんだし・・・今日は、  
楽しまないとね！その前につかさ起こさなきゃダメか。

「つかさ？早く起きないと置いてくわよー？」

「んゝあと、5分だけ・・・zzz」

寝てるし！？まったく・・・な！？もうこんな時間！？あたしが起きるのがもと遅かったの！？

「つかさ！悪いけど先に行くからね！？」

「ふあゝ・・・いつてらっしやゝい・・・」

あんたも行くんだからな！？

そんなツツコミを置いて私は家を後にした。

・・・

うわぁ・・・ちょっと人多すぎない？こなたと前に行ったコミケぐ

らい・・・やめよう。人が多いのはもうこりこり・・・

「人がまるでゴミのようだー！！・・・だったよな、あやのー？」

「もう、みさちゃんったら・・・そんなこと言ったら失礼でしょ？」

「えーいいじゃんいいじゃん！」

峰岸と日下部は・・・いつもどおりね。とりあえず声ぐらいかけとこうかな？

「あんたは朝からなにやってんだよ」

「おつす柊ー！何だよー柊まで冷たいぞー」

ダメなものはダメなの！まったく・・・だいたいね、あんたがいつもそんな感じだから・・・

くくく

あれ？電話だ・・・こなたから？

「どうしたの？こなた？」

『今からゆーちゃん達のクラスに来てよ。いいもの見られるから』  
『！』

「はあー？いいものって何なのよ？」

『まあ、とりあえず来てねー！』

はあゝ、いいものって言われたら行くしかないかあ・・・峰岸はどうする行く？

「オイ！柊ー！何であたしは誘ってくれないんだってヴァー！？」

「うゝん、私は行きたいんだけど・・・みさちゃんのセリフの最終確認しなくちゃいけないから」

「ヴァー！？あやの昨日あんだけやったからもついいじゃんー！？」

「じゃあまた後でね、柊ちゃん」

日下部は峰岸に引つ張られて行った・・・みんなの成功がかかってんだから、ほんつと頼むわよゝ！

・・・

ただ歩き回るのもなんだし・・・誘われた手前、ゆたかちゃん達のクラスに行ってみた・・・べ、別にさみしいから来たわけじゃないからねっ！

ドアを開けてそこに待っていたものは・・・

優希 side

「こ、こなた！今ならまだ許してやるからやめるんだ！」

俺、悪いことしてないはずなんだ・・・！何でこんな目にあわなくちゃいけないんだ・・・！！

「優希くん！早くしないと時間無くなるから諦めてよ！」

何で、そんな目で見るんだよ！？しかも、力強っ！？逃げられねえ・・・！

「やめろおおおおお！！！」

・・・・・・

かがみ side

黒髪を後ろで短くまとめ、メイド服に身をつつみ、何処からどう見ても女の子のメイドさんに見える・・・優希くんがいた。

「ふっふっふ、どうだねかがみ？私の作りだしたメイドは」

ヤバイな・・・最近、疲れてると思ってたのよね。

そろそろ休憩しないとダメかしら？こなた？飲み物もらえる？

「かがみ様！？スルーが1番悲しいです！！！」

しょうがないなあ・・・一応、怪しいやつに聞いとくか？

「こなた？どうしてこうなったの？」

「いや、何でも今まで気づかなかったかね。過去の私は！」

「いや、何にだよ。詳しく言ってくれ」

何かイヤな予感しかしないけど・・・

「男の娘だよ！？リアルな男の娘だよ！？」

ま、まあ・・・そりや可愛いとは思わよ！けど、女として何かこう・・・認めたくないというか、嫉妬心というか・・・

「かがみ、ニヤニヤしたり悩んだりしないで何か言ってあげないと優希くん泣くよ？」

「もう泣いてんだよ！ちくしょう！」

何やってんだか・・・あ、そうだ。

「この後、二人はどうするの？ヒマなら一緒に回らない？」

「うーん、行きたいんだけど・・・これからちょっとね・・・」

「ん？何が・・・」

あるの？と、聞こうとしたけど理由が分かった。



教室のドアの所に人、人、人！何でこんなにいるのよ！？

「ふははは！！人がまるでゴミのようだ！」

「あんたもか！？」

「あれは、〇（おとこの娘）<sup>ハンター</sup> Hだよ？リアル<sup>ハンター</sup>の男の娘を求め、日々悪と戦うっていう・・・」

「まてまてまて！そんなのおかしいから！？第一悪って誰なのよ！？」

「子供の親とかPTA」

「あんたらが悪いんだろうが！？」

「な、なあ？こなた？あいつらは何でこんな所にいるんだ？」

確かにそうね、何でこんな所に・・・あつ！！まさか、こなた・・・！

あんたが呼んだんじゃないでしょうね？

「てへ やっちゃった（＞＜）¥」

「やっちゃったじゃないだろおおお！？どうしろと！？今にも突撃しそうなだけど！？」

『本当に男の娘がいるんだよな！？』

『ああ！しかも、超可愛らしい！』

『・・・み、みなさん。落ち着いて』

『コーヒー10杯でスペシャル特典が付いてくるらしいぞ！』

『確か、ゲームの特典が好きなポーズでのセリフだったはずよ！』

『お姉ちゃん！もうムリだよ！？』

・・・恐ろしいわね・・・OHメンバー！

優希くん！早く逃げないと・・・って、もう捕まってる！？

「こなた！頼む！今度何かおこるから！？」

「今、逃げられたら私が大変な目に合うんだよ！？もー！ゆーちゃん、開けちゃって！」

「う、うん。みなさん、どうぞ・・・きゃあああ！」

ゆたかちゃんがドアを開けた瞬間、一気に人が我先にと優希くんの所にむかった。

『マジで超可愛いじゃないの、この娘！』

『カメラとビデオを回せ！さっさとしろ！戦いはもう始まっているんだ！！』

「や、やめろー！！撮るんじゃない！やめろおおおおおおお  
おー！！」

あの人達の流れで追い出されたけど・・・優希くんがこの後どうなることやら・・・

・・・結局、一人で回ることになるのか。

### 第35話

桜藤祭！（後書き）

すいませんでしたー！（ 〃 〃 ; ）

先週はだせず・・・今週は何か微妙に・・・

本当にすいませんでした！

では、また次回で！

優希の写真が欲しい方はここまで って、見えないじゃん！？

### 第36話 桜藤祭！part 2

かがみ side

優希くんコスプレ会場みたいになってる教室からでてきたけど・・・ヒマね。

見て回ってるけど・・・特に面白そうなのも無いし・・・

『え！？優希の女装写真が撮れる場所があるの！？よし、めぐるちゃんががんばっちゃうぞー！！』

・・・へえー、優希くんって私達以外にも可愛い女子の知り合いが居たんだ・・・しかも、名前で呼べるほど仲がいい子が・・・！

「おーい、柊ー！何イライラしてんだよー？」

何でこいつがここにいるのよ？しかも、心でも読めるのか！？

「べつつにー！あんたこそどうしたのよ？確認はもういいの？」

確か峰岸とセリフの確認だったはずよね？

まあ、あんたのことだからどうせ、抜け出てきたんだってヴァー、とかなんとか言っただけでしょ？

「いやーそれがさーあやのが兄貴と一緒に引っちゃってさー柊でも探そうかなー？って、ワケよ」

珍しいパターンもあったもんだ。

「で、日下部あんたはどっか行きたいところある？」

「さっき聞いたんだけどなー優希の女装が見れるらしいぜー！？からかいに行こうぜー」

私さっき行っただけなんだけど・・・ちょ！？引つ張るなよ！？

・・・

結局、引つ張られたまま戻ってきたけど何この人の数！？何で教室の外まで人が溢れてるのよ！？

「なあー柊ー？やっぱやめて何か食いに行かねー？」

あんたがここに連れてきたんでしょうが！？

でも、あの中に行くのは流石にね・・・ああ、でも中に優希くんが居るし・・・やっぱり見たいしゝあゝ、もう！

「日下部！グダグダ言っでないで行くわよ！」

「えゝ！行くのかよゝ！」

今度は、私が日下部を引つ張って教室に行こうとした。

でも、誰かがいきなりでてきてぶつかるはめに・・・

「いったゝ！」

「あいたたた、そっちの人大丈夫ですか？すいません、いきなり飛び出しちゃって・・・」

その声の主は、私を見てとても驚いた顔をしていた。  
私の顔に何か付いてる？

「私は大丈夫よ。あんたこそ大丈夫？」

ぶつかった人は優希くんのことを親しそうに呼んでたあの子だった。  
私は自分でも分からない内にこんな質問を知らない彼女にしていた。

「ねえ、あなた？何で優希くんの名前を知ってるの！？」

その瞬間彼女に、しまった！っていう表現がぴったりの悔しそうな顔をした。

「・・・かがみも知ってるよね？記憶喪失や過去のこと・・・」

何で私の名前を・・・いや、違う。今、聞くべきなのは記憶喪失のこと！

頷いて返すと彼女は何処か諦めたように口を開いてくれた。

「これから優希は、「なあー、終とそこのちびっ子！？優希って、記憶喪失なのか！？初めて知ったぜー！」・・・ちびっ子言うなー！？」

あんたってやつは・・・！！大事な話だったのに何てことしてくれてんのよ！？空気が一気に変わっちゃったじゃないの！

「あははは！流石みさきちねー！空気を壊す天才だねー」

日下部の名前まで知ってるのこの子？会ったことあるかしら・・・？

「ねえ、あなた？何処かで会ったことあ「なあなあー！？何で何でも知ってんだー！？ちびっ子！？」さっきからあんたは黙ってる！？」

「やっぱり、かがみはこうじゃないとねーそれじゃあねー」

「待つて！一応聞きたいんだけど、あんたの名前は？」

「一応って、ひどいなー星河めぐるだよ？めぐるって呼んでねー」

そう言つと彼女、いや、めぐるは出口の方に向かって行つた・・・あ！？結局、優希くんとどんな関係なのか聞いて無かつた！！

「ん？柊ー何かネックレス光ってね？」

「あ、本当だ・・・きれい・・・」

「だなー？それよりも早く優希に会いに行こうぜー」



この時の私たちは、本当に気づいてなかった

・・・これが、この桜藤祭が・・・

私たちを日常から離れさせたのは・・・

誰も気づいて無かった・・・

### 第36話 桜藤祭！part2（後書き）

優希「何かイキナリ急展開になってないか!？」

K I N O S E I Y O

優希「俺の出番とセリフすら無かったんだが!?!しかも2話連続で!？」

え?女装状態であつたじゃん?

優希「あれは、俺じゃない・・・!」

ふ、こちらには写真があるというのに・・・

優希「セコすぎるだろ!?!オイ!?!」

では、また次回で!

### 第37話 桜藤祭からの忘れ物

俺、いやわたくし水野優希はちょっとだけ普通の一般的な高校生とは違う人間である。

昔の記憶が無いし、顔も、もし女装したら（優希はしてないことにした）女子に似てることや、ケンカが強いなどなどある。

そして、時々変な夢を見る。

俺の昔の知り合いの奇妙な話を聞かされる夢や過去の記憶の夢などだ。

この一年、こなた達と出会って色んなイベントを過ごしてきた。

そして、今ひとつのイベントが終わろうとしている。そう、桜藤祭だ。

その桜藤祭の最後に文化系のクラブにより桜藤祭についての記事が書かれる。

ここまで呼んでもらったら分かってくれるだろ・・・今、俺の目の前にあるものは・・・

『一年D組女子ランキング！第一位小早川ゆたかさん・・・といきたいのですが、途中いきなり現れた美少女水野優希さんです！』

『第二位の小早川ゆたかさんを大きく引き離してぶっちぎりの一位

です!』

『水野さんによせられているコメントには、俺の嫁!や、俺の女神!などなどたくさんコメントがありました!』

『いやゝ、スカウトしたのは私だけど、まさかあそこまで行くとはねゝゝゝ。とりあえず一位おめでとゝ!優子ちゃん!』

『海で体見てますます女子っばいなゝゝゝって思ってたんだよねゝゝ』

『製作者アニメーション部      一年田村      三年泉』

.....

・・・あいつら・・・マジゆるさん!

何が、おめでとゝ!だ!こなたが無理矢理やらせたんだろ!?

しかも、自分のインタビューを自分たちでまとめるなよ!?!?そういうのは客の人か二位のゆたかちゃんに聞くべきだろ!?

そりや一位になつて桜藤祭MVP賞っばいのはもらつたけど、その賞はゆたかちゃん達の1-Dに取られるし・・・あああ!もうはらたつてきた!!

やっぱり一回ガツンと言ってやる・・・!覚悟しとけよ・・・!こなた・・・!ひより・・・!

「あんたは一人で何をブツブツ言ってるんだ？」

かがみか？今、ちょっとO H A N A S Iしに行きたいんだが・

「そつえばあんた星河めぐるって子知ってる？」

「な、なんでかがみがめぐるを知ってたんだよ！？」

めぐるとかがみは知り合いだったのか！？

だったら何でもっと早く言ってくれなかったんだよ！？

「私も桜藤祭の時に初めて会ったわよ！でも・・・めぐるは私と曰下部の名前を知っていたわ。初めて会ったのに・・・」

初めて会ったのに名前を知っていた・・・？

夢の中で会ったりしてるからおかしいとは思ってたけど・・・

なあ、めぐる？

・・・お前は一体何なんだー！？

「って、マジメな話だろうが！？ネタはいいから！」

「まあ、今は待つことしかできないんじゃないか。」

「そりゃ、そうだけど・・・優希くんの過去を知ってるのかもしれないのよ？聞かなくていいの？」

「俺さー、はつきり言つと過去の記憶はもういいかな？って、思つてんだよな」

「！？どうして」

そんな驚いた顔すんなよ。

別に諦めたわけじゃない・・・俺は、今・・・いや、かがみやこなた、他のみんなが一緒にいる今にいるんだ。

「優希くん・・・」

「だから、俺はめぐるを待つ。どうせいつか解るんだから待ってればいいだろ！」

めぐる・・・俺はお前を待つ。だから、いつか話してくれよ？

その時、めぐるにもらったペンダントが弱く・・・だけど、確かに光った！？何故！？

「私のネックレスも確か光ったはずよ？にしても、やっぱりきれいね〜！」

これ、光るもんなのか？

焦るじゃねえか！？てつきり、魔女になるかと・・・なわけないか。

「そつえばゆたかちゃんの誕生日もつすぐらしいけど・・・優希くん行けるの？」

「ああ、余裕余裕」

「今回の期末落としたらヤバイんだから勉強しなさいよ？じゃあね」  
かがみは教室に戻って行つた・・・じゃない！？期末ヤヴァイ！？  
何にもしてねえぞ！？

「誰か勉強教えてくれえええ！！？」

本当に行けるのか心配になってきた・・・

### 第37話 桜藤祭からの忘れ物（後書き）

優希「コスプレ計画は夏の前のこなたの計画でした〜！

優希「誰が覚えてんだよ！？そんな古い伏線！？」

みんな覚えてくれてるハズだよ！？

優希「また、めぐるがでてきたな？本当にどうなるんだ？今後の話は？」

一気に聞かないでよ！？今後の話はなるべく早くだせるようにするから大丈夫だよ！？

優希「ところで今度は俺が借りたペンダントが光ったんだが・・・あれは何なんだ？」

まあ、それは秘密で では、また次回で！



### 第38話

テスト何それ？おいしいの？（前書き）

映画見た後に小説を書く・・・やる気が出ない・・・！なぜなんだ・  
・・！

movie大戦メガMAX！見てやる気MAX！・・・上手いふう  
にいかないもんだ（〃 〃 ・ ・ ）

達観してる場合じゃない！？

本編をどろぞろ！

### 第38話

テスト何それ？おいしいの？

「・・・笑えばいいと思うよ？」

・・・何だつて？というか、教える気ないだろ！

「だからそうじゃないって！」

・・・何だよ・・・じゃあ、ここは？

「ここはですね、この方式を使って・・・こうやるんですよ」

「あゝ全くわからねえ！やっぱり勉強なんて無理だー！！」

何で、かがみとみゆきはできるんだ！？い、いや！俺は甘いものを食べると知能指数が飛躍的にアップするっていう特殊能力が・・・

「みんなー！ケーキ出来たよー！」

ごめんなさい！そんな設定ありません！許して下さい！

「あんたは誰に向かっていいワケしてんだ？」

「まあ、細かいことは気にすんなよ！食べようぜー！」

俺達は今、柊家にて、勉強会（？）をやっていた。

かがみとみゆきが教えて、つかさがケーキを作り、俺とこなたが遊びつつみんなで食べるという完璧の布陣だ！！

「どこからどうみても完璧じゃないから!？」

「何処がだ!？この布陣を敗れるテストは無い!!弱点なんかあるワケないだろ!」

敷いて言うなら、俺の点数が落ちるだけだ!ただ、それだけだ・・・!

「あのー、威張って言うことじゃないと思いますよ?」

「みゆきさん!この布陣には、優希くんの大学にいける確率が下がるっていう効果もあるんだよ!」

「ごめんなさい!マジメに(たぶん)するので教えて下さい!

「しょうがないわねえ・・・じゃあ、優希くん。ここの問題やつてみて?」

・・・・・・はい(涙)

・・・・・・

お、終わった・・・！さすがに、成績トップ級の二人の教え方は分かりやすいが疲れるな

ガチャ

「みんなそろそろご飯だけど、食べて行く？」

ドアを開けてでてきたのは、かがみとつかさのお姉さん・・・と言われたら信じてしまいそうなお方、柊みきさん！・・・なんと、かがみ達のお母さんなのだ！？

「お、お母さん、みんなもう帰るから大丈夫だって！」

「すみません、みきさん。ありがとうございます。」

「あら、優希くんそうだったの？じゃあ、今度またいらっしやい。がんばって作るから」

みきさんのレシピかあー！楽しみだなー！

よし、今度絶対来よう！

「「何で優希くんとお母さんが普通に話してるの！？」」

「え？7月7日に誕生日会やった時に会っただろ？そんなにびつくりしなくても・・・」

「じゃなくて、何でそこまで仲がよくなってるのよ！？優希くん、

あんたまさか・・・」

ちっがう！？何無いことを勝手に言ってるの！？かがみ！？こなたとみゆきの冷たい目が痛いから！？」

「俺とみきさんはよくスーパーでたまに会ったよ！だから、会ったら挨拶したり料理について聞いたりしてただけだから！？」

「そ、そうだったの・・・よかった、本当にそう思ったじゃない」

最後のほうが聞こえなかったんだが・・・何て言ったんだ？かがみ？

「はい！じゃあ、誤解が解けたところでこなたちゃん達はまだ帰らなくて大丈夫？かなり、暗いけど・・・」

「あー！？やばい！？今日早く帰らなきゃ行けなかった！？優希くん、みゆきさん！急ごう！」

あ、ああ！かがみ、つかさ、みきさん！お邪魔しましたー！

「明日のテスト頑張りなさいよ！」

かがみがデレた！みんな、かがみがデレたよ！

「明日のテスト、酷かったら覚えときなさいよ！・・・もうっ！」

・・・

『水野優希以下の点数により追試を行う』

数学 9点

理科 23点

世界史 17点

保険 28点

英語全て 5点

冬休みは無いと思え？by黒井

『

「か、かがみつ！これには、ワケがあつてだな？イベント戦が忙しくて勉強できなかったなんだよ！ほら、俺は悪くな・・・」

「覚えてるわよね？テストがダメだったら、・・・どうなるんだっただけ？」

・・・アハ

「ちょ！？かがみ！腕はそちに曲がらな・・・ぎゃあああああああ！！？」

『あの日見たかがみの優しさを俺はまだ知らない』

「さて、罰ゲームは何にしよう？」

「優しさの欠片も無いな、オイ!？」

ゆたかちゃんの日会・・・ガチで行けるのか、心配になってきた・・・!

### 第38話

テスト何それ？おいしいの？（後書き）

『スーパータカ！スーパートラ！スーパーバッタ！』

『ス〜パ〜！タ・ト・バ！タ・ト・バ！』

メガMAXがよかった！オーズ最後の戦いかと思ったら、ゲフンゲフン。

最後のオーズとフォーゼの戦いは感動した！DVDでたら借りに行こう！（笑）

テストダメダメな優希！

果たしてゆーちゃんの誕生日会に行けるのか！？

次回、特別編 12月20日といえば

お楽しみに！（ 〃 〃 ． ． ）



特別編 12月20日といえば・・・

今日は、クリスマスの4日前！！お父さんやお母さんが忙しい日だ！！

「優希くん？分かってて言ってるなら入れないよ？」

ボタン ガチャガチャ

え？ちょ、こなたさんっ！？待つて！？冬の寒い時に外に放置はやめてええええええええ！？ぶえーくしょん！？な、何だこれ！？何で力ギが！？

ガチャ

「もうっ！ご近所さんに迷惑だから早く入ってよ！」

よかった・・・！家の前で某会長みたいに、ハッピーバースデー！！  
って、言って終わりかと思った・・・！

「早くしてよ！今なら、お父さん居ないから！」

そ、それはどういう意味何だ・・・？はっ！？大人の階段を登るチャンス・・・

その瞬間！キレイなローキックが炸裂して、倒れたところで誰かの足に当たった。

顔を上げて見るとそこには、人類未踏のばぎゃあああああああ



ね、ネタが次から次へ溢れでるっす！」

「お前、本当に二人の友達か・・・？今は、助けたり、心配する場面だろ！？」

「ゆーちゃん、ゴメン！やっぱり、クラッカーの量が多かったよね・  
・本当に、ゴメン」

「お姉ちゃん、大丈夫だよ？ちょっと思ってたより、音が大きくてびっくりしただけだから」

ふう、よかった！てつきり一番近くで鳴らした俺のせいかと・  
・

「あゝ、でも、優希先輩？目の前で鳴らされたのは流石にびっくりしちやいますよ？」

「へ！？いや、俺そんなに近くで鳴らしてないよ！？もうちょっと後ろのほうだった・・・」

その瞬間！ある者は、蹴りや格闘技などを使い、またある者は、俺の口にケーキを入れ、またまたある者は、それを見てネタ帳に書き混んでいた。

「もがっ！？もががが！？（誰だ！？ケーキ入れたの！？）」

言って気づいた。

俺はみんなからたくさんの思い出をもらった。たくさんの笑顔とともに。

おかげで、今はみんな笑いあえる・・・そんな日常があと少しで終わるんだって・・・

だから、俺は・・・

「・・・・・・・・・・を」

「え？優希くん何か言った？」

「いゝや、何でもない！それより、ゲームとかやろうぜ！ゆたかちゃん！一緒にやろうぜっ！」

・・・・・・・・・・

「ああー！？何でカード使いきった後にまだ、なすりつけれるんだよ！？」

「フッフッフ、ヒキたいカードをイメージする・・・これがモモテツのダイゴミです！」

これは、そんなゲームじゃねええ！ゆ、ゆたかちゃんっ！とりあえず逃げればまだ、勝てるぜ！あとは、任せた！

「ええ〜！？優希先輩！？無理ですよ〜！？」

「諦めんなよ〜っす！最後までわかんないっすよ？」

ピンポーン

ん？誰か来たのか？

こなたのほうを見てみると青ざめた顔で『あゝあ、やっちゃった〜  
みたいな目でみてきた。』

何だよ？何が起こる・・・はっ！？

確か・・・こなたのお父さんに会ったらマズイんだろ？何故かは知  
らんが・・・

「優希くん・・・油断してたよ！おとなしくやられてね」

はあっ！？何で会っただけで殺されなきゃいけないんだ！？

そんな話をしている間にこなたのお父さんはドアを開けて入ってき  
た・・・！

特別編 12月20日といえば・・・（後書き）

20日を完全に過ぎてます！すいませんでした！

間に合わせようとかがんばったんですが・・・バイトが・・・って、言い訳言ってるみたいなんでやめます！

本当にすいませんでした！

これからも見てくださると、作者は泣いて喜びます！（笑）

では、また次回で！

### 第39話      メリークリスマス！（前書き）

こなた「さあ始まるザマスよ！」

みゆき「いくでガンす」

つかさ「ふんが」

かがみ「まともに始めなさいよ！！」

優希「さらに〜！」

こなた「あ三年B組い？」

こなた・みゆき・つかさ「」「黒井先生ー！！」

かがみ「はいはい」

優希「最後にー！ハイッ！」

みんな「」「メリークリスマス！！」

優希「リア充ばあれ！？ちょっと！？予定と違うじゃん！？」

かがみ「折角のクリスマスを台無しにしてどうすんのよ？」

つかさ「そうだよー！ほら、早く座って座って」

みゆき「泉さん、お願いします」

「こなた」それでは本編・・・スタート!!」



### 第39話      メリークリスマス！

会っただけでヤバイだと・・・！こりゃ、本気でいくしかないな・・・！魔力全開・・・！開放！

手にはいつでも防げるように力をいれて、足はいつでも逃げれる体制に・・・よっしゃー！何処からでもかかってこい！！

ドアを開けて、そこに居たのは・・・

「はろー！ゆたか、誕生日おめでとう！みんなも久しぶり！」

・・・ゆいさんだった。なんだよ焦った・・・。

「なんだゆい姉さんかぁー！お父さんかと思っただけ・・・」

「でも、よかったーおじさんだったら、優希先輩見たらどうなっちゃうかと思っちゃった」

「ケンカとかになったらどうするのかなーって、私思ってたよー」

こなたとゆたかちゃんの心配する気持ちは有難いんだが・・・つかさー！会った瞬間、ケンカってどういうことだよ！？流石にあり得ねえよ。・・・モンスターペアレントとかじゃない限りだけだな・・・

その時ゆいさんの後ろからビニール袋が落ちる音が聞こえた・・・あれ？まさか・・・

「お、お父さん！？居たの！？」

こなたが言うお父さんとやらは、作務衣に無精髭、もつとも特徴的なのは藍色に近い青の髪の毛だった・・・って、冷静に分析してる場合じゃない！？やられる！？

「おゝ、みんないらつしやい！うんうん、女子10人に対して俺は・・・やっぱり勝ち組だあゝ！！」

うんうん、その気持ちは分かりますよこなたのおやっさん！

・・・あれ？女子10人？こなた、かがみ、つかさ、みゆきの三年生組にゆたかちゃん、みなみちゃん、ひより、パティ。そして、ゆいさん・・・あれ？あと一人・・・？まさか・・・！

「あゝこなたのお父さん？」

「おお、初めまして。こなたの父親のそうじろうつていうんだ。よろしくっ！」

こなたと話してる気分になるのは・・・アレだな。似すぎだろ！？

「あ、俺水野優希つていいいます。よろしくお願ry」

「優希・・・？い、イヤ聞き間違いだな。すまない、もう一度聞かせてくれないか？」

何故なんだ・・・言ったら、人間に戻れなくなる・・・気がする！！



それは、あれだよ？時間を進める魔法・・・ザ・ワールド！！を使  
ったんだよ！

「イヤ、止まってるから」

あの後、どうなったかって？

そうじろうさんは俺が男だと気づいた瞬間、『男の娘は二次元のな  
かだけよおお！』と、自分の部屋に閉じこもってしまった。

正直、言つと俺も逃げたかった・・・！だってあのための空気 of 悪さ  
といったら・・・！バルサミコ酢にチョコを混ぜて作ったチョコ  
ロネみたいな感じだ・・・！？

そこで、こなたの提案でもう一度・・・というより、改めてクリパ  
でもやらないか？と、なった。

それで、俺、かがみ、こなたの三人で足りなくなった材料や、パー  
ティーグッズを買いに来た、というわけだ。

「こなた？ロウソクはいいのよね？」

「ロウソクはあるからいいよ。それより、かがみ？あつちのケー  
キがかがみを呼んでるよ？」

「んなわけあるかッ！！」

「おい、終わったんなら早いとこ戻ろっぜ？雪が段々ひどくなっ  
てきてやがる」

こうして、足りなかった物やかがみのお腹に納める供物を買い、俺達は帰ろうとした。

「な、何故超ウルトラスペシャルデラックスエクストラボックスがここに!？」

「長い名前だなオイッ!？」

かがみのツツコミをスルーし、こなたは離れようとはしなかった。おもちゃ屋さんのガラスに向かってグズを見る姿は、本当に可愛らしい小さな女の子にしか見えなかった。

でも、何で寂しそうな顔をするんだ?グズならいつか手に入るだろう?

さらに、雪がひどくなってきたため、俺はこなたにこう言った。

「別に今度でもいいだろ?俺が付き合っからさ？」

そう言いつつこなたの肩に手を置くと、こなたは諦めたのか、再び歩きだしてくれた。

「・・・さっ、行きましょう。優希くん？」

「そうだな?おゝい、待ってくれよ?こなたゝ!」

とりあえずバイトでもやらないとな・・・今さっきや、時々見せるこなたの寂しそうな顔を見なくなかった・・・

ここで何か買ってプレゼントして、付き合っっていう王道フラグを

回収させてもらっぜ！！・・・よく、考えたらあり得ないな。意味なかった・・・！

「よし、全速前進だ！！」

元氣いいな！？何処の社長だよ！？粉碎！玉碎！大喝采！！する気か！？

かがみ side

今、優希くんがあなたの肩に触った時、ペンダントが紫色に光ったような・・・？

気のせいよね？前、光ってるのを見た時はエメラルド・・・みたいに光ってたもん。

多分、何処かのネオンの光よね？この胸のとてつもないざわめきは気のせいよね？

あっ！？優希くんもあなたも待ちなさいよ！！

私は、これが気のせいだと信じていた・・・

けど、現実は・・・そうじゃなかった。



### 第39話　メリークリスマス！（後書き）

メリークリスマス！

ここで一句言ってもいい？

優希「ん？いいんじゃないか？」

クリスマス　カードをいじって　過ごしマス

優希「・・・・・・・・・・・・・・・・」

クリスマス　小説書いて　終わリマス（涙）

優希「悲しすぎるわっ！？なんだよ、上の二つは！？」

きよ、今日の私だよ！？悪い！？

優希「何かやることあっただろ？」

ここで緊急告知いきまゝす！！

正直・・・この小説そろそろ終わりそうになるっていう。

優希「うおおいしい！？正直すぎるだろ！？何でだよ！？」

それは、話が終わるからだよ！？さあ、どうなる優希！がんばれ優希！君の肩に私の人気がかかっている！



では、また次回で！

優希「ちょ！？ッコミさせるよ！？」

## 第40話 残された月日（前書き）

今年、最後の更新です！（〃 〃 ・ ）

後、何話になるかは分かりませんが・・・楽しんで行って下さいね  
（！

## 第40話 残された月日

ふぁゝ、そろそろ寝るかな？もうイベントも終わるし．．．なににより疲れたゝ。

俺はパソコンを切り、イスから立ち身体を伸ばして、柔軟体操をした。これが気持ち良いんだよなゝ！

そして、押入れからベルトを出して．．．

「えっと．．．メダルは何処にやったかな．．．？」

プテラにトリケラにティラノでプトティラコンボ！！．．．俺に．．．力を！！

『プテラ！トリケラ！ティラノ！プゝトティラゝノザウルスゝ』

くうゝゝゝ！何回聞いてもいいぜ！プトティラソング！未来永劫飽きない！

『スキヤニングチャージ！』

はあああ．．．！セイヤアアアア！！．．．ってな？やべえ、楽しい！

クラッ

あ、あれ何かクラッときた。ヤバイな．．．風邪かも．．．？

ベルトを外して、ベッドにダイブ・・・何て余裕は無い！！倒れこむように・・・というより、倒れた・・・

その時、ゆっくりと閉じられる目に見えたのはめぐるから貰ったペ  
ンダントが紫色に輝くところだった・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・

『目覚めよ・・・』

「ん・・・誰だよ・・・？俺は、眠いんだよ・・・って、誰だ！？  
しかも、何処だよここ！？あ、ここは知ってるな」

俺が居た空間はいつぞやめぐると話（？）というより、アニメみた  
いな展開だった話を聞かされた場所だった。

でも、前回と違うのは前はペンダントと同じ色のエメラルドっぽい  
空間だったのが、今回は最後に見たペンダントの光の色だった・・・  
そう、紫色の混じった空間だった。

『目覚めたか・・・』

声がした方を見てみると、ペンダントが浮いていた。しかも、この空間と同じ状態になっていた・・・オイオイ、夢にしては悪夢すぎるぞ・・・！夢ならさめろ！

『お前の欲望が目覚めるのを待っていた・・・』

俺の欲望？意味がわからん？また、長門話でもする気か！？

「またこの空間に勝手に連れて来られて今度は勇者になる誘いか？なら、断らせてもらっぜ？」

『貴様はこの空間に来た事があるのか・・・？』

アラストールかよっ！？って、ツッコミたいけど流石にそんな空気じゃないな・・・

「ああ、あるぜ？めぐるっていうちょっと怪しい系の美少女に連れて来られてな」

『！？バカな・・・！何故奴がここに・・・！奴の力は世界を・・・いや、言っまい・・・』

イヤ、そこまで言ったら最後まで言えよ！？それより、世界？何でめぐるが世界なんて大きな話に関わってるんだよ！？

『そっいえば貴様は記憶が無いんだっとな・・・』

お前も知ってると思ったよ・・・戻す方法何か知らないか？

まあ、知ってるワケないよな

『戻してやろうか・・・貴様の記憶を・・・』

ほらな、やつぱり戻せるん、ええっ！？戻せんのかよ！？俺の記憶！？

「どうやったら戻せるんだよ！？」

『我を望め・・・！我を取り込め・・・！さすれば汝の欲望、叶うだろう・・・このようにな・・・』

やつがそう言った時、黒い何かが俺の身体に不快感とともに襲ってきた！

ぐっ！？何だこの感じは！？胸の奥から、何かがでてくるみたいな感じは何なんだ・・・！？い、いや、そんな事より大変な事をこいつは言った・・・！

俺の願いを望めば、こいつは願いを叶えてくれる・・・そんな都合のいい話があつてたまるかよ！

「で、それは俺にとってノーリスクハイリターンなのか？それとも何か条件でもあるのか？」

『なに、簡単なことだ・・・ペンダントが紫に光る時ペンダントを掴め・・・』

ペンダントを掴むだけで、記憶が戻るのかよ！？最初から言えよ！

そんな、簡単なことで記憶が……

記憶が……

『どうした……？戻したくないのか……』

あ、頭の中に……！こなた達と居た、今までの思い出が……！  
頭の中に……移し出されて、いく……？

『早くペンダントを受け入れる……！』

「俺の中に……何かが……！強い……何だよ……！……？が  
あああああああ……！！？」

『そうだ……受け入れる……！……はっ……！』  
その瞬間、紫のエネルギー弾が何処からか現れ、俺の身体に直撃し  
た！

エネルギー弾が現れたところには……この空間で会った時と同じ  
姿で彼女は立っていた……

「なん……で……？」

めぐるがいた……





第40話 残された月日（後書き）

また夢の中に行ってしまった優希！

こなた「でも、今回は前回とかなり違ったよね？」

この物語の崩壊が始まりだしたんだよ・・・！

こなた「え？それって一体どういう事？」

今年中に終わるかな・・・？って、思ったけど・・・流石にムリでした（笑）

こなた「ちょっと！今年中に終わる予定だったの！？初耳だよ！？」

ま、そこは気にしないで（＝＝）

読んで下さった皆さん！今年はありがとうございました！

こなた「来年もよろしくお願いします！」

では、よいお年を！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0642t/>

---

らき すた 彼女達と過ごした日々・忘れられない宝物

2011年12月31日16時54分発行